

令和4年度

(2022年度)

社会福祉法人 東蒲原福祉会

事業報告書

東 蒲 の 里

東蒲の里 みかわ園

ど ん ぐ り

と こ な み

# 目

# 次

## I 令和4年度社会福祉法人東蒲原福祉会 法人事務局 事業報告

	頁
1. 入職・離職状況	1
2. 人員構成	1
3. 法人委員会開催状況	
3-1. 組織強化チーム	2
3-2. サービス管理向上チーム	3
3-3. スキルアップチーム	4
4. 東蒲原福祉会研修報告	5

## 1 入職・離職状況

### 1. 令和4年度入職・離職状況（常勤8時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里 (とこなみ含む)		みかわ園		どんぐり	
職員数 (4月1日)	121人		3人		45人		38人		35人	
	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職
4月	3	1	0	0	1	0	2	1	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1
8月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
9月	1	2	0	0	1	1	0	0	0	1
10月	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
11月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
3月	0	5	0	0	0	3	0	2	0	0
合計	6	12	0	0	3	5	2	4	1	3
入職率	4.96%		0.00%		6.67%		5.26%		2.86%	
離職率	9.92%		0.00%		11.11%		10.52%		8.57%	

※ 令和3年度の法人全体の入職率4.92%（6人）、離職率8.20%（10人）

#### 【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

#### 【参考】

令和3年度の介護業界全国平均離職率14.3%

## 2 人員構成

### 1. 令和4年度事業所別・雇用形態別職員数（令和5年3月31日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	どんぐり
職員	117人	3人	45人	36人	33人
臨時的採用職員	0人	0人	0人	0人	0人
パート職員	50人	3人	17人	16人	14人
シニア職員	12人	0人	3人	4人	5人
登録ヘルパー	8人	0人	0人	0人	8人
合計	187人	6人	65人	56人	60人

### 3-1 組織強化チーム

#### 1. 委員会開催状況

令和4年度においては、組織強化チームとしての会議の開催が行えなかった

#### 2. 結果及び課題

##### (1) 人事考課制度について

- ・人事考課制度が開始されて10年以上が経過し、職員の入れ替わりにより人事考課制度の内容が理解できていない職員も多くなっている。

このことから、人事考課制度について職員の理解が深まるよう取り組みを行っていきたい。

##### (2) 業務効率化と連携強化について

- ・新型コロナウイルス感染症により法人内のICT活用が進み、業務の効率化が図られている状況となった。

令和5年度から全国で「ケアプランデータ連携システム」の運用が開始されることから、阿賀町内での運用開始に向けて法人内事業所と連携して対応できるよう、取り組みを行います。

## 3-2 サービス管理向上チーム

### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項
7月29日 (ワキング)	○令和4年度事業取り組み検討 ・令和4年度事業計画
8月29日	○各施設において整備されている指針やマニュアルの状況 ・各施設において、どのような指針とマニュアルが整備されているか確認した。
12月16日	○各施設において整備されている指針やマニュアルの状況 ・各施設において、整備されている指針とマニュアルが更新の頻度を確認した。

### 2. 結果及び課題

#### (1) 各施設において整備されている指針やマニュアルの状況

- ・指針においては指導監査や実地指導の項目にあるため、整備されている指針に変わりはない。マニュアルや手順書においては、各施設において、どこまでをマニュアルや手順書に記入するか判断に違いがあった。
- ・また、見直しや更新の頻度に違いがあった。

#### (2) 今後の取り組みについて

- ・各施設における指針やマニュアルを定期的に更新、見直しができる体制を構築したい。

### 3-3 スキルアップチーム

#### 1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
7月21日	○令和4年度研修について ・令和3年度の研修進捗状況 ・5年目振り返り研修について ・指導力向上研修について ・同業種・異業種研修の代替え研修について ・令和4年度研修別対象者一覧について
10月27日	○新任研修の開催時期について ○新任研修項目の高齢者虐待について

#### 2. 結果及び課題

##### (1) 令和4年度の研修について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修は予定通り開催することができなかった。

##### (2) 新任職員研修

- ・新任職員研修については、採用がある度開催しているが、日程調整や講師の依頼等に時間を要している。年間で開催する月を決めて開催してはどうかという提案があったが、採用が月途中の場合は翌月の初めに行い、採用人数が少ない場合は次の採用者に合わせて開催することとした。  
また、研修講師を各施設に配置し、入職する施設で行う。

##### (3) 今後の取り組み

- ・新任研修の研修資料の見直しや、必要な研修をどのように行っていくか検討を継続していく。

## 4 東蒲原福祉会研修報告

### 1. 研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	年度中	東蒲原福祉会新任職員研修 講師：東蒲原福祉会 職員	新任職員	11名

### 2. 結果及び課題

- (1) 東蒲原福祉会研修体系に基づいた研修については、新任研修を除き新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
- (2) 今後の取組について
  - ・就業時間を考慮した研修の日程や時間帯を検討し、多くの職員が研修に参加できるように計画したい。

## Ⅱ 令和4年度社会福祉法人東蒲原福社会

### 東蒲の里 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設	6
2. 短期入所生活介護事業	10
3. 通所介護事業	14
4. 居宅介護支援事業	18
5. 東蒲の里研修報告	22
6. 東蒲の里ボランティア活動状況	24
7. 東蒲の里災害対策	24
8. 東蒲の里苦情受付・対応報告	25
9. 東蒲の里事故等発生状況報告	25

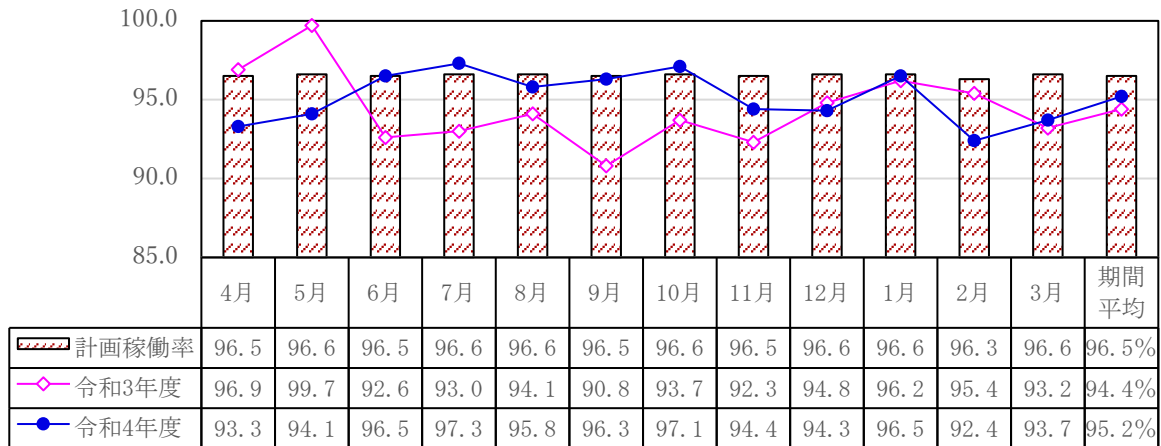


# 1 介護老人福祉施設

## 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(50人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,372日であったことから

$17,372 \text{ 日} \div 18,250 \text{ 日} (50 \text{ 人} \times 365 \text{ 日}) = 0.9518$  稼働率 95.2%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

## 2. 要介護度別入所者数(令和5年3月31日現在)

	要介護度					期間平均
	1	2	3	4	5	
令和3年度	0人	1人	13人	26人	10人	3.90
令和4年度	0人	1人	11人	29人	9人	3.92

## 3. 要介護度状態の変化(令和5年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	41人
悪化	8人
合計	50人

#### 4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月13日 ～ 4月21日	観桜会	・気分転換を兼ねて散歩をして桜を鑑賞した。 お茶とお菓子をお出しして、写真撮影を行った。
7月7日	七夕会	・ご利用者から願いを書いていたいただいた短冊をつけて、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
8月14日	花火見物	・施設内の食堂から花火を鑑賞した。
9月14日	敬老会	・感染症予防のため会食は行わなかったが、昼食に祝い膳を提供した。長寿の祝いとして記念品の贈呈、壇上での記念撮影を行った。
10月18日	秋祭り	・利用者と職員によるカラオケ大会を開催した。 ※感染症対策を行い実施した。
12月22日	クリスマス会・忘年会	・ケーキとクリスマスプレゼントを贈呈し、記念差常意を行った。
1月1日 1月2日 1月12日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会を実施した。 正月料理(お汁粉、甘酒)を用意し、歌を一緒に歌って正月の雰囲気味わっていた。 ・団子刺しの行事を行った。 ご利用者には、団子刺しの枝を整える作業や飾りつけをさせていただいた。

## 5. 事業報告(総括)

施設サービスの質を高めるため、研修の実施やマニュアルの見直しを行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 事業所内で接遇マナー、言葉遣いに関する研修を行います。</li> <li>② 言葉遣いや態度などの接遇に関する指導では、現場で適宜注意を行うことで適切な言葉遣いなどを身に付ける環境作りを行います。</li> <li>③ 身体拘束や虐待防止などの指針、ケアにおける手順書を定期的に見直します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 言葉遣いの園内研修を行い、個々の職員が日々の言葉遣いの振り返り、優しい言葉に置き換える研修を行った。</li> <li>② 職員から言葉遣いに関するアンケートを行い、言葉遣いの事例集を作成した。特に注意することをケアステーションの扉に貼って注意喚起を行った。</li> <li>③ 事故権利擁護委員会においては指針、事業所会議においてケアにおける手順書の見直しを行った。県からの通知や事故の再発防止に向け、手順書を修正した。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の言葉遣いに関して、定期的な働きかけを行うことで適切な言葉遣いが身に付くよう、今後も継続的な活動とします。</li> <li>・ 昨年度に引き続き、担当する委員会、事業所会議において、指針や手順書を見直します。</li> </ul>

事業継続計画(BCP)に沿った取り組みを強化します。	
取組事項	① BCPに関する研修及び訓練を行います。
実績	① マニュアルを作成し、感染症についてはシミュレーションを行った。
課題と今後の取組	・ 研修及び訓練を行います。

ITやICTなどのテクノロジーを活用し、施設からの情報発信を充実させるとともに業務負担の軽減を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フェイスブックやラインなどのSNSを活用し、施設の情報を発信します。</li> <li>② ICT機器の導入による職員の負担軽減を図るため、導入に向けた検討会議を開催します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 行事の様子や出来事をフェイスブックに投稿した。</li> <li>② タブレット端末の導入の検討を行った。事業所会議において、今の状況を踏まえ、記録としてのタブレットの導入は不要となった。</li> </ul>

課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所会議において、施設で使用しているアプリなどが有効的に活用されているか検証し、多くの職員が活用できるよう取り組んでいきます。</li> </ul>
----------	--

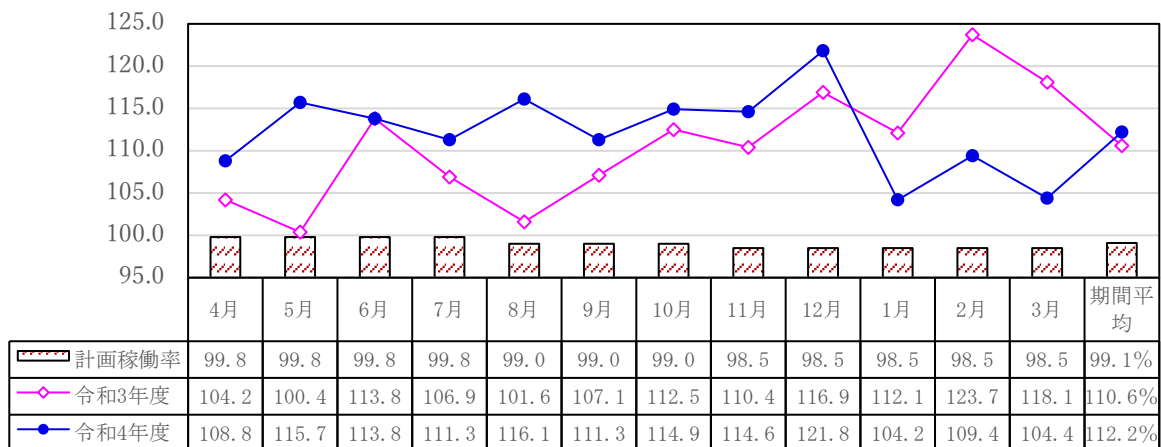
自立支援に向けたケアの充実を図ります。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者の体を動かす時間を増やすため、個々のご利用者または小さいグループで行うことができるレクリエーションのスケジュールを作り実践します。</li> <li>② 認知症ケアの充実のため各種専門研修に参加し、職員のスキルアップを図ります。</li> <li>③ 日々の利用者の様子や周辺症状(BPSD)とその際に行った対応、その後の利用者の様子について情報を収集し、その検討結果を基に統一したケアを実践します。</li> <li>④ ご利用者が健康に過ごせるよう、介護職員と専門職(医療、栄養、機能訓練)の連携を強化する取り組みを行います。</li> <li>⑤ 多発する尿路感染症や誤嚥性肺炎の予防のため、事業所内の研修を通じて職員のスキルアップを図るとともに、日常のケアを見直し 予防に努めます。</li> </ol>
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 事業所会議において、利用者の状態にあったレクリエーションメニューを再検討した。また、少人数で行えるレクリエーションや iPad を活用したレクリエーションを検討し、実施した。</li> <li>② 研修の申し込みが参加希望者多く抽選からもれて参加できなかった。</li> <li>③ 対象利用者の選定を行ったが入院やコロナ感染症対応のため、実施できなかった。</li> <li>④ 看護職員、機能訓練指導員と相談し、クッションなどを効果的に使った姿勢の保持や、個別リハから生活リハに繋げるケアの検討を行い実践した。</li> <li>⑤ 発症する原因を再度検証し、皮膚の清潔を保てるようにケアを見直し継続できるように徹底した。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、レクリエーションメニューの検討と体を動かすレクリエーションの導入を検討します。</li> <li>各種研修に参加しその内容をマニュアルの見直しや専門職との検討やケアの見直しに活かします。</li> </ul>

## 2 短期入所生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



#### ※稼働率について

1日定員(8人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,272日であったことから

$$3,272 \text{ 日} \div 2,920 \text{ 日} (8 \text{ 人} \times 365 \text{ 日}) = 1.120 \text{ 稼働率 } 112.1\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

#### ※稼働率が100%を超えている理由について

定員8名を超える利用希望があり、特養の利用者が入院している間、そのベッドを短期入所利用に代えて利用していただいたため、稼働率が100%を超えている状況です。

### 2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	0	60	0	670	512	673	818	506	3,239日
令和4年度	0	32	0	636	153	1,077	885	489	3,272日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	33	31	32	33	32	30	28	30	32	16	27	25	29人
延べ利用日数	273	276	288	267	285	275	285	275	302	254	245	259	274日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和3年度	1.00	3.33 日	2.89	9.29 日
令和4年度	1.00	2.70 日	2.95	9.74 日

#### 5. 要介護度状態の変化（令和5年3月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	0 人
維 持	0 人	22 人
悪 化	0 人	3 人
合 計	0 人	25 人

※障害者利用は除く

#### 6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

## 7. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族が安心して在宅生活が続けられるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用中のご利用者一人ひとりの身体機能を把握すると共に、多職種と連携を図りながら健康状態の安定と身体機能の維持に向けたケアを行います。</li> <li>② 認知症のご利用者に安心して過ごしていただけるよう、安全に日常の生活動作をしていただくため、その方に合わせたケアを実践します。また、レクリエーションや趣味活動を通じて認知機能の低下を予防します。</li> <li>③ ご利用者家族が、ご自宅でも同じようなケアを行うことができるよう、施設のケア内容に関する情報を提供します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 多職種と連携し、機能訓練や水分量、食事摂取状況の観察、医療的ケアの統一を図った。</li> <li>② 趣味活動などを通じ個別の症状に合った脳トレや塗り絵などを提供することができた。</li> <li>③ 連携ノートや、送迎時に情報提供し施設での対応方法をご家族と共有を図った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康状態と身体機能の維持が図れ、安定した日常生活が継続できるよう、個々の利用者に向けたケアを行い、身体(認知)機能の維持に向けた取り組みを行います。</li> </ul>

業務継続計画(BCP)に沿った取り組みを強化します。	
取組事項	① BCPに関する研修及び訓練を行います。
実績	① マニュアルを作成し、感染症についてはシミュレーションを行った。
課題と今後の取組	・ 研修及び訓練を行います。

ご家族との交流、施設の取り組みについて理解を深められるよう努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 施設での取り組みや介護に関する情報を、Q&amp;A を取り入れたミニ通信の発行回数を増やし情報発信を行います。</li> <li>② 送迎時にご家族と面談する時間を作り、ご自宅での様子やご家族の希望などについて意見交換を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>② ご利用者家族に向け、介護に関する情報や施設での生活様子を映した写真など、「ミニ通信」に載せて3回発行した。</li> <li>③ 相談を受け、施設での様子や対応方法をご家族に伝えた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設での取り組みを紹介する「ミニ通信」の発行を継続します。また、今後もご家族と面談する時間を作ることで、ご家族からの相談や意見をサービスに反映できるよう取り組んでいきます。</li> </ul>

ITやICTなどのテクノロジーを活用し、施設からの情報発信を充実させるとともに業務負担の軽減を図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① IT(リモートや情報共有アプリなど)を活用したサービス担当者会議の開催や情報共有を進めます。</li> <li>② ICT機器の導入による職員の負担軽減を図るため、導入に向けた検討会議を開催します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>② ITを活用し、各事業所、法人内の在宅サービスと連携することで、サービスの方法の統一を図った。</li> <li>② 導入に向け、検討を行ったが具体的に機器を選定することなで至らなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スムーズにリモート会議や、情報共有アプリが活用できるようにします。</li> </ul>

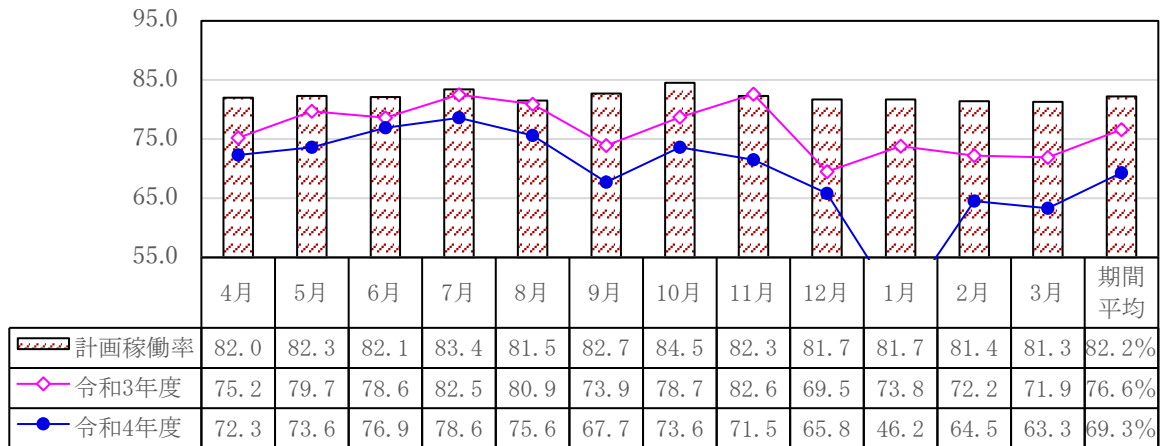


### 3 通所介護事業

#### 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(25人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

年間の延べ利用日数が5,320日であったことから

$5,320 \text{ 日} \div 7,675 \text{ 日} (25 \text{ 人} \times 307 \text{ 日}) = 0.6931$  稼働率 69.3%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

#### 2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	283	418	211	1,768	1,088	1,315	546	257	5,886日
令和4年度	272	299	95	1,519	922	1,277	433	503	5,320日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	61	62	63	63	64	60	61	59	57	54	58	55	60人
延べ利用日数	470	479	500	508	510	440	476	465	444	231	371	426	443日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
令和3年度	1.22	5.88日	2.47	7.60日
令和4年度	1.16	4.85日	2.53	7.97日

5. 要介護度状態の変化（令和5年3月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	1 人	2 人
維 持	5 人	27人
悪 化	1 人	7 人
合 計	7 人	36人

※基準該当2名、外部委託(きりん荘)10名を除く

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
9月19日 ～23日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、曜日毎に職員による余興を楽しんでいただいた。
12月22日 ～28日	忘 年 会	・日替わりで職員の余興を披露した。最終日にはご利用者と一緒に餅つきを行った。
1月 9日	団子さし	・皆さんで団子を丸め、装飾品を飾って楽しまれた。

## 7. 事業報告(総括)

<p>ご利用者が自分らしい在宅生活を継続できるよう、各職種の専門性を活かした自立支援に取り組めます。</p>	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個々の生活環境や状況を把握し、在宅生活を続ける上で重要な生活動作の維持向上を目的とした個別機能訓練を行います。</li> <li>② 認知症利用者が安心して過ごせるよう、根拠あるケアを提供するために、ユマニチュードを導入します。また、周辺症状が顕著に表れている利用者に対しては個別ケアを検討し、症状に合わせたケアを提供します。</li> <li>③ ご利用者の栄養状態や健康状態を把握し、異常の早期発見に努めます。ご家族や医療機関、介護支援専門員と連携を図ることで、個々の健康状態に合わせた支援に繋がります。</li> <li>④ ご利用者のニーズに基づいた「目的」を達成できるよう、介護支援専門員と連携し利用方法の調整を行います。</li> </ol>
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 定期的に家庭環境と生活状況を確認しながら個別機能訓練を行った。</li> <li>② 認知症利用者への関わり方について、利用中の様子や在宅での様子を確認しながら、事業所内で検討会を行い、個別の症状に合わせたケアの見直しを行った。</li> <li>③ 事前に家族や担当介護支援専門員と情報共有を図り、健康状態の悪化予防のためのリスク管理を図った。また、ご利用者の状態変化時の対応方法についてその都度確認しながら支援を行った。</li> <li>④ ご利用者本人や生活状況の変化など担当介護支援専門員と情報交換を行いながら必要な専門職による相談支援を行った。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅生活や在宅介護が安全に継続できるよう、利用者の持っている様々なリスク、身体機能の低下の予防について情報提供を行います。</li> <li>・ 利用者個々のニーズが多様化(在宅での看取り、利用者の生活の質(QOL)の向上、認知症対応など)してきていることから、それぞれの目的に合った支援が行えるよう、職種毎にスキルアップを図ります。</li> <li>・ 心身共に状態が安定し、趣味や得意なことを活かして、楽しんで利用できるよう、プログラムを見直します。</li> </ul>

業務継続計画(BCP)に沿った取り組みを強化します。	
取組事項	① BCPに関する研修及び訓練を行います。
実績	① マニュアルを作成し、感染症についてはシミュレーションを行った。
課題と今後の取組	・ 研修及び訓練を行います。

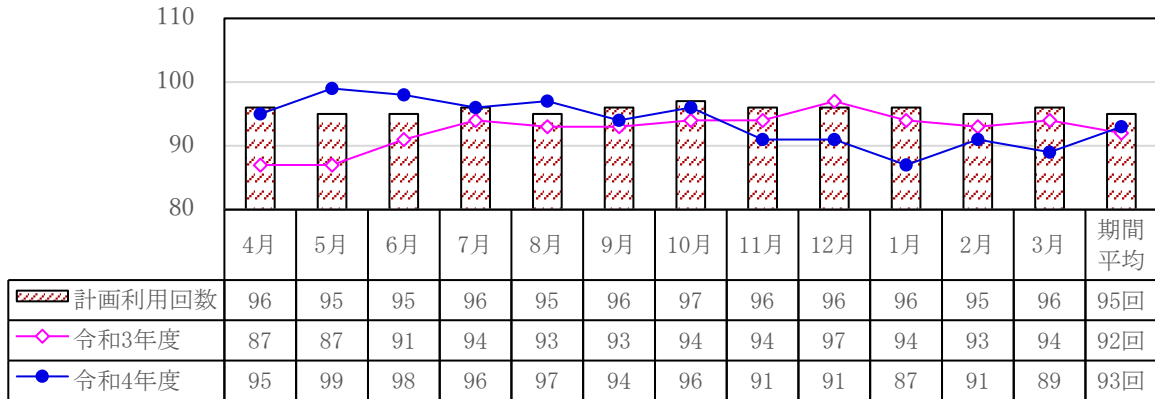
ITやICTを活用し業務の見直しを行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フェイスブックを活用し、行事や機能訓練の様子を動画などで配信し、情報発信を行います</li> <li>② タブレットを活用し、動画や画像を通して介護支援専門員への営業活動やご家族への情報提供を行います。</li> <li>③ リモート会議を活用できるよう、サービス担当者会議や介護支援専門員との連絡体制を見直します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 季節行事や活動内容など定期的にフェイスブックで情報発信を行った。</li> <li>② 訪問や電話での情報発信がメインとなり、タブレットを活用するまでには至らなかった。</li> <li>③ ICTを活用し、法人内の在宅サービスと合同カンファレンスを行うことで、統一したサービスの提供を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	・ ITやICTを活用し業務の効率化や営業活動の見直しを図ります。

## 4 居宅介護支援事業

### 1. 要介護者給付管理状況

(給付管理件数)

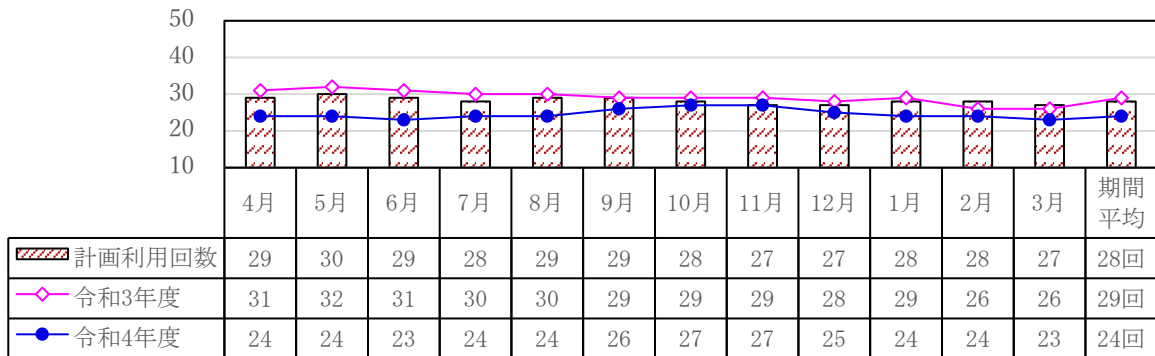
(単位:件数)



### 2. 介護予防給付管理状況

(給付管理件数)

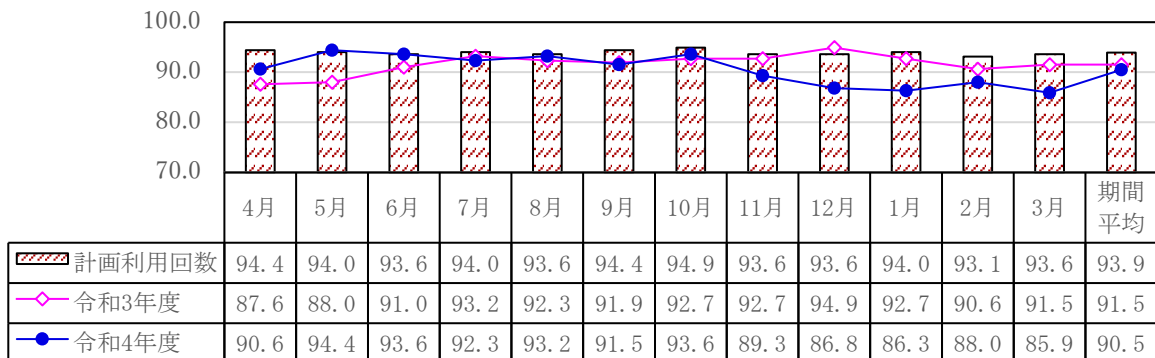
(単位:件数)



### 3. 介護保険担当者状況

(稼働率)

(単位:回%)



※稼働率について

介護給付管理を行える上限(1人あたり39人)に対して、給付管理をした人数の割合を表します。

ただし、介護予防については、1件あたり0.5人とします。

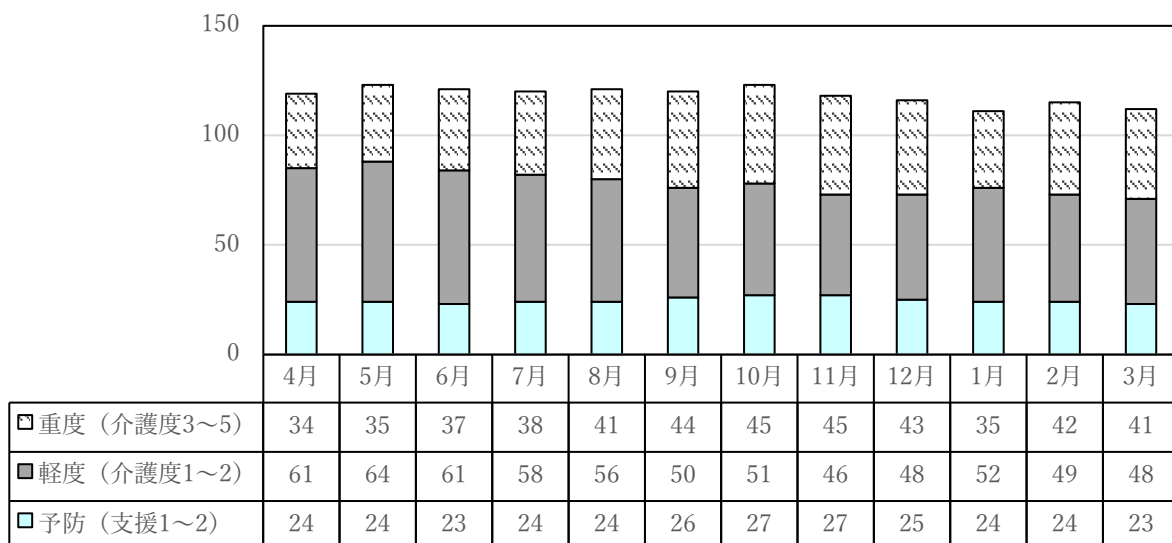
半年間の延べ給付管理件数(介護1,124件+予防295件÷2)であったことから

$$(1,124 \text{ 件} + 295 \text{ 件} \div 2) \div (\text{介護支援専門員} 3 \text{ 名} \times 39 \text{ 人} \times 12 \text{ カ月}) = 0.905 \text{ 稼働率 } 90.5\%$$

(介護給付件数) (予防給付件数) (介護支援専門員 3 名 × 39 人)

#### 4. 区分別利用者状況

(単位:人)



#### 5. 事業報告(総括)

ご利用者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 介護保険制度及び関係する制度について、パンフレットや各種制度の資料を用いて、出来るだけ分かりやすく説明します。</li> <li>② 迅速にサービス提供事業者との情報共有やサービス変更を行うため、ICTの活用を進めていきます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 初回利用時および必要に応じて繰り返し制度の説明を行った。</li> <li>② 状態の変化時やサービスの変更など、ICTを活用することで、情報の伝達がスムーズにできた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度は変化していくため、常に情報収集を行います。</li> <li>・ 法人内ではICTの活用が進んでいるが、他事業所間での活用には至っていないので、働きかけを行います。</li> </ul>

<p>利用者の体を動かす機会が減少することによる身体機能の低下(健康維持、運動機能の低下)を予防します。</p>	
<p>取 組 事 項</p>	<p>① 利用者が体を動かさないことで起こる健康上のリスクや機能低下について説明し、その予防策として何が必要か提案します。</p> <p>② 生活上、重要な運動機能(起床動作、立ち上がり、歩行動作など)を維持するため、個々のご利用者に応じた機能訓練等が行えるよう、サービス事業者と協力し支援を行います。</p>
<p>実 績</p>	<p>① 活動性が低下することで起きるリスクを説明し、機能訓練の必要性を伝えた。</p> <p>② 機能訓練指導員と情報交換しながら、利用者の状態に応じた機能訓練の実施につなげることができた。</p>
<p>課題と今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的なモニタリングで生活動作の評価を行い、変化が見られる方には、予防のためのサービスを提案します。</li> </ul>

事業継続計画(BCP)に基づき、感染症や災害発生時などにも、サービスを継続できるように事業所の体制を整備します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 緊急時連絡票を定期的に更新するとともに、緊急時にサービス調整等がスムーズに行えるようICTの活用について事業所内で検討を行います。</li> <li>② 感染症予防対策を実施するとともに、ICTを活用した会議の開催や連絡調整を行います。</li> <li>③ 緊急時や感染症発生時に、担当ケアマネ以外でもご利用者のフォローできるよう常にチーム内で情報を共有します。</li> <li>④ 感染症対策として事業所内で職員が密になる状態を回避するため、テレワーク業務や分散業務がスムーズに実施できるよう手順の確認や必要物品の準備を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ICT を活用することで、急なサービス調整もスムーズに行う事が出来た。</li> <li>② 感染症の拡大状況に応じて、リモートでの会議を開催し、顔を見ながらの話し合いができた。</li> <li>② 事業所内での連絡会議を定期的に行い、担当以外のご利用者の情報を共有することで、担当者不在でも支援を行なうことができた。</li> <li>④ 感染状況に応じて、テレワークや分散業務を実施した。事務所以外で業務を行う事で不具合もあり、事務所を感染予防に考慮した配置に変更した。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTの利用になれ、様々な場面で使用できるようになったが、他法人とのやりとりなど、広く活用できるようにしたい。他法人との連携にもICTを活用できる様、働きかけを行います。</li> </ul>



## 5 東蒲の里 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項 目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	新潟県介護支援専門員「更新研修」
		施設管理栄養士が行う高齢者の栄養支援(ウェブ)
		新潟県主任介護支援専門員更新研修
		新潟県集団指導
		社会福祉施設安全管理研修会
		社会福祉法人会計実務セミナー(ウェブ)
		喀痰吸引等研修
		衛生管理者受験対策セミナー
		安全対策体制加算対応研修(ウェブ)
		新潟県老施協企画研修 「認知症ケア・パーソンセンタードケア」 (ウェブ)
新任衛生管理者実務セミナー		

## 2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	・感染症、食中毒予防について ・疾患、ご利用者の緊急対応研修 ・危険予知トレーニング	45人	38人	84%
6月	・口腔、栄養、褥瘡ケアについて ・腰痛予防について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	45人	38人	84%
7月	・救急法	45人	45人	100%
8月	・両立支援について ・苦情について ・プライバシー保護について ・危険予知トレーニング	44人	40人	91%
9月	・法令遵守について ・個人情報保護について ・高齢者、障害者虐待防止について	44人	40人	91%
10月	・感染症予防と吐物処理について ・緊急時の事故対応について ・危険予知トレーニング	44人	38人	86%
11月	・看取り介護について ・接遇・言葉遣い・身体拘束について ・危険予知トレーニング	45人	36人	80%
12月	・事件事例検討のについて ・医療的ケアについて ・危険予知トレーニング	44人	41人	93%
2月	・褥瘡ケアについて ・危険予知トレーニング	44人	37人	84%
3月	・危険予知トレーニング	44人	31人	70%

・救急法は法人全体で阿賀町消防署を会場に少人数制で行った。

## 3. 研修報告(総括)

### ① 外部研修

・コロナ禍で研修の在り方も変わり、Web研修会が主流となった。その中で、口腔ケアや喀痰吸引研修に参加し、技術の習得に努めた。

#### ④ 内部研修

- ・新型コロナウイルス感染症防止のため、集合研修は行わず、資料配布や動画視聴での研修を行った。また、研修内容に沿った問題を出題し、回答の提出を以て参加とみなした。

## 6 東蒲の里 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

## 7 東蒲の里 災害対策

### 1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
7月21日	・夜間想定避難訓練 夜間に火災が発生した想定で、初期消火訓練・初期消火・避難訓練を実施する。避難訓練後、阿賀町消防本部より消火訓練機器を借用して自主消火訓練を行った。	職員6名
10月20日	・日中想定防災訓練 日中に地震が発生し火災が発生した想定で初期消火訓練・消防署への通報訓練・避難訓練を実施する。避難訓練後、阿賀町消防本部より消火訓練機器を借用して自主消火訓練を行った。	職員11名

### 2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月3日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月7日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

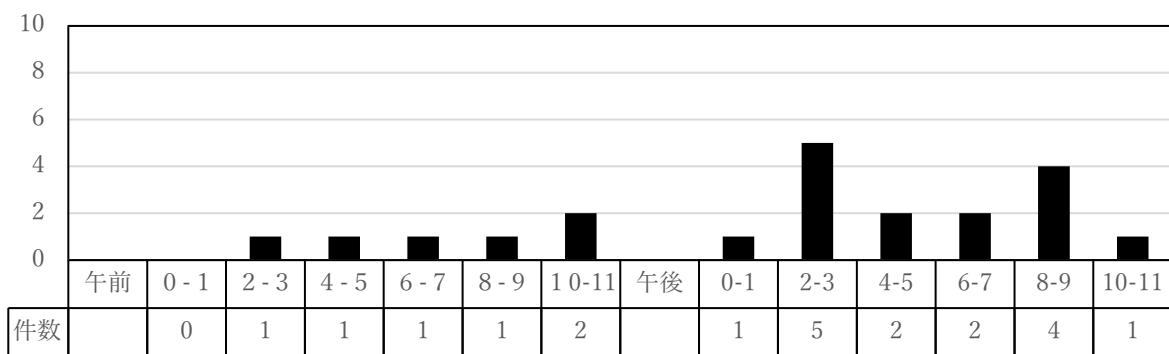
## 8 東蒲の里 苦情受付・対応報告

※令和4年度は、苦情や要望は、ありませんでした。

## 9 東蒲の里 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数

(単位:件数)



〈 発生件数合計 21件 〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	13件
食堂・ダイルーム	3件
トイレ	1件
廊下・玄関	2件
浴室	0件
施設外	1件
その他	1件
合計	21件

### 3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	3件	3件
骨折	7件	7件
裂傷	2件	1件
打撲・皮下出血	2件	0件
チューブ抜去	0件	0件
無断外出	1件	1件
私物紛失・破損	1件	0件
異食・誤飲	2件	2件
誤薬・与薬もれ	1件	1件
車輛事故	0件	0件
その他	2件	0件
合計	21件	15件

### 4. 事故報告

・令和3年度と比較して、1件増加した。(令和3年度20件)。上半期は7件だったが、下半期が14件と新型コロナウイルス感染症対応中に居室内で転倒するなど、職員の目が届かない中での事故が増えた。

居室内隔離中の利用者への対応を感染症委員会と連携し検証します。

### Ⅲ 令和4年度社会福祉法人東蒲原福社会

#### 東蒲の里みかわ園 事業報告

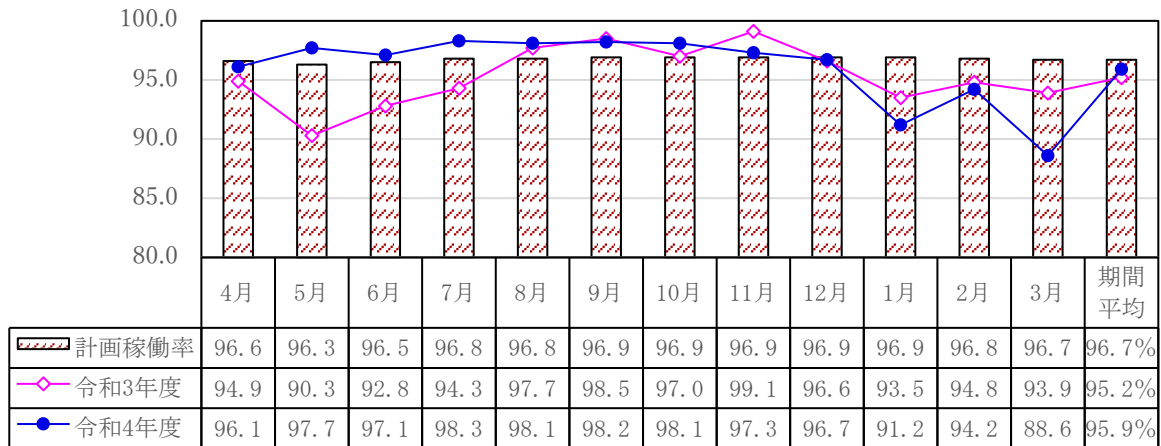
	頁
1. 介護老人福祉施設	27
2. 短期入所生活介護事業	31
3. 通所介護事業	35
4. 通所型サービスA（基準緩和型）	39
5. 高齢者生活支援ハウス	40
6. 新潟水俣リハビリモデル事業	41
7. 外出支援サービス事業	43
8. 東蒲の里みかわ園研修報告	44
9. 東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	45
10. 東蒲の里みかわ園災害対策	45
11. 東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	46
12. 東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	47

# 1 介護老人福祉施設

## 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(50人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,511日であったことから

$17,511 \div 18,250 \text{日}(50 \text{人} \times 365 \text{日}) = 0.9595$  稼働率 95.9%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

## 2. 要介護度別入所者数(令和5年3月31日現在)

	要介護度					期間平均
	1	2	3	4	5	
令和3年度	0人	1人	4人	26人	19人	4.26
令和4年度	0人	0人	5人	26人	19人	4.28

## 3. 要介護度状態の変化(令和5年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	41人
悪化	8人
合計	50人

#### 4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月12日 ～19日	お花見	・ドライブをしながら車中から桜を見ていただいた。
7月19日	団子作り	・季節が感じられるよう、水羊羹を召し上がっていただいた。
7月7日	七夕会	・短冊に願いを書いて笹に飾りつけを行った。
8月9日	三涼祭	・新型コロナウイルス感染対策のため、規模を縮小し行う。季節感を味わえる食事や魚釣りゲームやプロジェクションで打ち上げ花火を上映した。
9月16日 18日	敬老会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、会食と賀寿のお祝いの方に花束をプレゼントし、記念撮影を行った。
12月26日	忘年会	・新型コロナウイルス感染対策のため、行事内容を縮小し、クリスマスの飾りつけや行事食、クリスマスケーキを楽しんでいただいた。
12月28日	手打ちそば会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
1月1日 ～3日	お正月	・お汁粉や、甘酒でお正月の雰囲気を感じていただいた。
2月3日	節分	・新型コロナウイルス感染対策のため、豆まきは行わず、甘納豆を食べ楽しんでいただいた。
3月3日	ひな祭	・甘酒やお菓子でひな祭りの雰囲気を感じていただいた。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。



## 5. 事業報告(総括)

ご利用者ケアの質の向上と職員の腰痛予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① エビデンスに基づいた介護サービスを提供できるよう介護情報を活用して、ケアの質の向上に取り組みます。</li> <li>② ご利用者に安全安心な移乗動作を行うためにまた、職員の腰痛を予防できるよう福祉機器を有効的に活用したケアに取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者の状態に合った介護サービスを提供できるよう介護情報を基に職員間で意見交換をしながらケアの質の向上に取り組んだ。</li> <li>② スライディングボードを使用して介助することにより職員の腰痛予防やご利用者の体にかかる負担を軽減することができた。 新たに1台移乗用のリフトを購入し職員へ使用方法の指導を実施し、女性職員でも体が大きい男性利用者の移乗動作ができるようになった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別援助方法の一覧を継続して作成し、新任職員の育成に取り組む。</li> <li>・ ケアの質の向上や統一したケアを提供できるよう職員間での意見交換やコミュニケーションを密に図る。</li> <li>・ スライディングボードで移乗するご利用者が増えた為、必要なご利用者に使用できるように配置する。</li> </ul>

ご利用者の重度化予防及び感染症予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 介護職員の喀痰吸引資格の取得を進めて医療的ケアの向上に努め、多職種協働で水分摂取量や栄養状態を管理してご利用者の体調維持に取り組みます。</li> <li>② 各種感染症予防のガイドラインに則り感染対策を徹底して取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 介護職員の喀痰吸引の資格取得は、感染症の発生などにより実地研修がスムーズに進まなかった。医療的ケアについては、看護職員から介護職員へ栄養状態、水分摂取量の維持等、ご利用者個々への対応を周知して取り組むことができた。</li> <li>② 各種感染症による対策を実践していたが、3月に施設内にて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、収束まで1ヶ月を要してしまった。</li> </ul>

課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資格取得に向け、施設内での実施研修を計画的に進めて行き、さらなる医療的ケアの向上を目指し、入院されるご利用者を減らしていく。</li> <li>・ 今後も起こりうる施設内のコロナウイルス感染に対し、迅速、且つ確実に対応できるよう、日常での感染対策に加え、発生時の対応訓練を感染症委員会が中心になり実施していく。</li> </ul>
----------	---

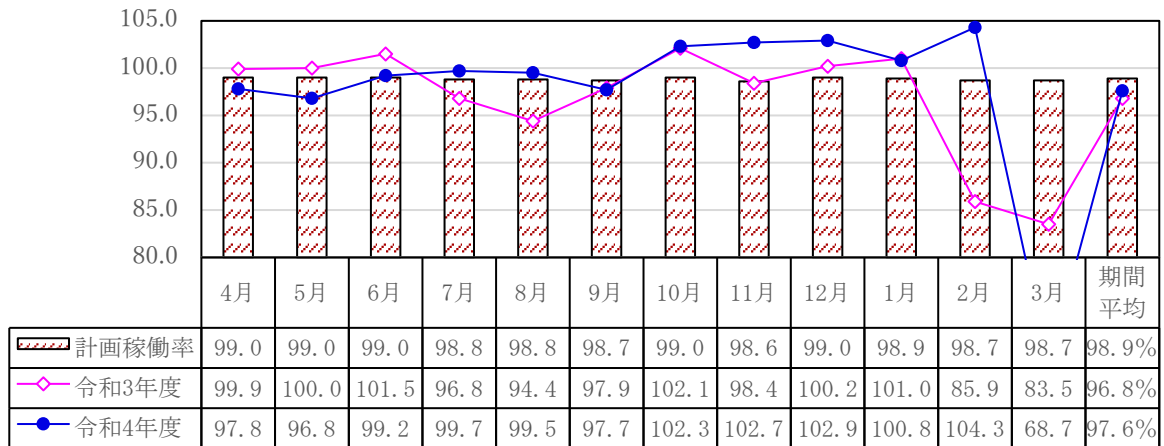
ICT活用して職員の連携と業務改善に努めます。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「情報共有アプリ」を利用して、職員同士の連携を図ります。</li> <li>② ご利用者の日常の様子などをご家族へ向けて情報共有を行います。</li> </ol>
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「情報共有アプリ」を利用して、職員間の感染症対策時の情報共有、また報告、連絡、相談に使用し、時間を短縮して連携を図る事ができた。</li> <li>② オンライン面会時に、ご利用者の状況を報告し、直接面会ができた際には、食事の様子などの動画をご家族に見ていただいた。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご家族とご利用者の直接面会ができるようになり、日常の様子などの説明に、ケアマネージャーや看護師だけでなく、担当介護職員が関わり、ご家族と信頼関係が築けるように取り組む。</li> </ul>

## 2 短期入所生活介護事業

### 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



#### ※稼働率について

1日定員(20人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,126日であったことから

$$7,126 \text{ 日} \div 7,300 \text{ 日} (20 \text{ 人} \times 365 \text{ 日}) = 0.9761 \text{ 稼働率 } 97.6\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

#### ※稼働率が100%を超えている理由について

定員20名を超える利用希望があり、特養の利用者が入院している間、そのベッドを短期入所利用に代えて利用していただいたため、稼働率が100%を超えている状況です。

### 2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	46	196	284	1,664	1,439	1,262	1,249	929	7,069日
令和4年度	38	91	374	1,436	1,264	1,641	1,631	651	7,126日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	48	52	48	52	49	60	57	50	59	51	49	33	51人
延べ利用日数	587	600	595	618	617	586	634	616	638	625	584	426	594日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和3年度	1.53	6.67 日	2.76	12.14 日
令和4年度	1.73	9.12 日	2.72	12.09 日

#### 5. 要介護度状態の変化（令和5年3月31日にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	1 人
維 持	2 人	24 人
悪 化	0 人	6 人
合 計	2 人	31 人

※障害者利用は除く

#### 6. 年間行事報告

開催日	実施工事	内 容
4月10日 ～17日	お花見	・ドライブをしながら桜を見ていただいた。
8月9日	三涼祭	・新型コロナウイルス感染対策のため、実施せず、季節感を味わえる食事を楽しんでいただいた。
9月16日	敬老会	・新型コロナウイルス感染対策のため、式典及び祝宴は実施せず、賀寿のお祝いの方の記念撮影を行った。
12月26日	忘年会	・クリスマスケーキを用意して食べていただき、楽しんでいただいた。
1月1日 ～3日	お正月	・お汁粉や、甘酒でお正月気分を感じていただいた。
2月3日	節分	・新型コロナウイルス感染対策のため、豆まきは行わず、節分にちなんだおやつを食べて楽しんでいただいた。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。

## 7. 事業報告(総括)

在宅生活が継続できるように支援します。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 送迎時やサービス担当者会議等で積極的に情報を得ることで個別サービスの充実と事故予防を図っていきます。</li> <li>② 事業所が主催するケア会議等を通じ、居宅介護支援事業者及び居宅サービス事業所との連携を深め、統一したケアを目指します。</li> <li>③ 在宅介護が困難な方が利用できるように、当法人内の短期入所サービスと連携して利用調整を図り受け入れます。</li> </ol>
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ZOOM を活用することで職員がサービス担当者会議に参加しやすくなり、施設でのサービス状況を関係機関に知っていただく機会が増えた。</li> <li>② 「利用者状況報告」を居宅介護支援事業所へ提出することで、ご利用者の体調や家族の意向等について関係機関と情報共有ができた。</li> <li>③ 当法人内の短期入所サービスが合同で利用調整をすることで入院中に退院許可が出ても在宅復帰が困難な方や、急な介護負担軽減を目的とした受け入れができた。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ slackを活用して法人内で利用者状況の共有を図る。</li> <li>・ ご利用者が阿賀町で在宅生活の継続ができるように、担当介護支援専門員を通じて、法人内短期入所利用調整会議に他のサービスも交えて利用調整を支援する。</li> <li>・ 今後も選ばれる施設を目指し「利用者状況報告」や「slack」を活用して、当事業のサービス内容を知ってもらうことで新規利用者の獲得へと繋げていく。</li> </ul>

安心してご利用できるように、体調の観察を行います。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 身体の異常に早く気づき、家族と連携して医療機関へ受診することで、重症化を予防します。</li> <li>② 健康状態を家族及び、各事業所と共有し、体調を崩さないように連携を図ります。</li> </ol>
実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 体調面の把握と異常の早期発見ができたことで、早めの受診へと繋がり、入院回数を減らすことができています。</li> <li>② 医療機関との連携を図ってきたことで、重度の方のサービス利用に結びついた。また根拠に基づいた援助を行ってきたことでご利用者の状態維持に繋がった。</li> </ol>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重度の方の受け入れがスムーズにできるように医療機関との連携と情報の把握を積極的に行っていく。</li> <li>・ 看取り介護サービス向上のため、事業所内外の研修に参</li> </ul>

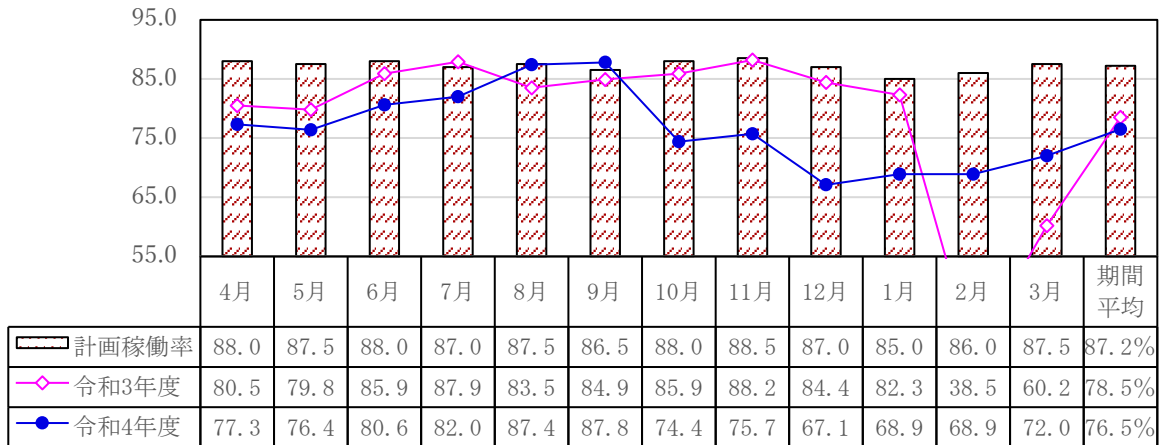
	加する。
感染症を防ぎます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家族や担当介護支援専門員、他の事業所と情報を共有し、感染リスクの軽減を図ります。</li> <li>② 感染症の予防を徹底し、感染と蔓延を防ぐことで体調面の安定を図ります。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家族や担当介護支援専門員、他の事業所と情報を共有して早期対応を行い感染予防に取り組んだ。</li> <li>② 新型コロナウイルス感染症の流行によりサービスに影響がでたが、その他の感染症に関しては感染予防策を行うことで防ぐことができています。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も入所前の体調確認や利用中のバイタルチェックを徹底し、異常の早期発見、早期対応で各種感染症の予防に取り組む。</li> </ul>

### 3 通所介護事業

#### 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(22人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が5,638日であったことから

$$5,638 \text{ 日} \div 7,370 \text{ 日} (22 \text{ 人} \times 335 \text{ 日}) = 0.7649 \text{ 稼働率 } 76.5\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

#### 2. 要介護度別延べ利用日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	38	528	562	2,036	630	617	404	557	5,372日
令和4年度	42	560	381	2,066	738	624	693	534	5,638日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	57	56	61	58	62	60	53	52	54	53	53	52	56人
延べ利用日数	442	437	461	469	519	503	508	500	458	425	425	491	470日

#### 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和3年度	1.41	4.6 日	2.39	8.3 日
令和4年度	1.31	6.1 日	2.45	10.4 日

#### 5. 要介護度状態の変化（令和5年3月にご利用されている方を対象としています。）

内 容	要支援	要介護
改 善	1 人	1 人
維 持	15 人	27 人
悪 化	0 人	7 人
合 計	16 人	35 人

※基準該当1名を除く

#### 6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
7月1日 ～7日	七夕週間	・短冊に願いを書き飾りつけを行った。
9月13日 ～19日	敬老会週間	・利用者の皆さんにプレゼントを贈りお祝いした。
11月	作 品 展	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。
12月	忘 年 会	・新型コロナウイルス感染対策のため、中止した。

※行事開催時は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、各事業において縮小して実施した。



## 7. 事業報告(総括)

安心して利用していただけるよう、ご家族との連携に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご家族の身体的・精神的負担を軽減するため、ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら介護負担の把握やアドバイスを行い、相談・支援に努めます。</li> <li>② ご家族からの要望やアンケート結果を踏まえ、在宅生活が継続できるよう職員の知識や技術を提供します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 担当職員がご家族と情報を共有し、サービスの代替えや希望に対応し、10月より日曜日の稼働を開始する取組みを行った。</li> <li>② ご家族との信頼関係を築けるよう送迎時に、ご利用者の健康面や身体状況等を報告して助言を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅での生活が継続できるようご利用者の健康面や不適應行動の対応方法などの相談対応を行い、ご家族の不安を軽減する取組みを継続して行う。</li> </ul>

効果的な機能訓練を実践し、ご利用者ご家族の生活を支えられるよう努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アセスメントに基づく、機能訓練計画を作成することで在宅生活での自立支援に繋がるよう取り組みます。</li> <li>② ご利用者のニーズを把握して機能訓練の効果を説明し、意欲を高める機能訓練を実施します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 明確な目標を設定し、具体的な効果を示すことで下肢機能の向上に必要な移動(歩行)・立位に関する機能訓練メニューを作成して取り組んだ。</li> <li>② 訓練の実施状況やリハビリ内容を、ご家族にわかりやすく説明することができた。また機能訓練指導員を中心とした評価、見直しを継続して取り組んだことで、ご利用者は運動する機会が増え、継続して取り組むようになった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後もご利用者一人ひとりの希望や生活環境の把握を行い、生活における課題を解決できるよう助言を行う。自宅でスムーズな生活が送れ、活動量が向上するよう、運動・口腔・栄養の一体的なサービス提供を継続して提供していく。</li> </ul>

生活能力や意欲向上に向けた認知症ケアに努めます	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 認知症専門職員が知識を活かし、症状別の根拠に基づいた認知症ケアを実践します。</li> <li>② 目的や役割を持つことで、やる気を引き出し、生きがいを持ち生活できるよう、認知症の予防ケアプログラムに取り組みます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者ごとに認知機能予防のためのプログラムを作成し、継続して取り組める環境を整えた。</li> <li>② ご利用者個々に対し、環境設定、関り方や介助方法を工夫することにより不安感を軽減させ、落ち着いて過ごせる環境を作った。集中して取り組める時間を設けたことで、「自分でできることが増えた」「落ち着かない様子が減少した」「活動に興味を示す時間が増えた」等、ご家族からの声が聞かれ、効果がみられた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後もご利用者への効果的な対応方法や環境設定、関わり方(介助方法)を工夫することにより、不安感を軽減し、認知力低下を防ぐ。また日常的に行う動作が継続できるよう働きかけることで、ご利用者が喜びを感じ自信を取り戻せる環境づくりを行います。</li> </ul>

## 4 通所型サービスA(基準緩和型)

### 1. 通所型サービスA利用状況

	新規 登録者数	登録者数	登録 終了者数	事業日数	延べ 利用者数	1日平均 利用者数
4月	0人	6人	0人	4日	22人	5.5人
5月	0人	6人	0人	3日	14人	4.7人
6月	0人	6人	0人	4日	23人	5.8人
7月	1人	7人	0人	4日	25人	6.2人
8月	0人	7人	0人	4日	25人	6.0人
9月	0人	6人	1人	4日	24人	4.5人
10月	0人	6人	0人	4日	21人	5.3人
11月	0人	6人	0人	3日	17人	5.7人
12月	0人	6人	0人	4日	14人	3.5人
1月	1人	5人	1人	4日	12人	3.0人
2月	0人	6人	0人	4日	15人	3.8人
3月	0人	6人	0人	4日	17人	4.3人
期間統計	2人		2人	46日	229人	4.9人

## 5 高齢者生活支援ハウス

### 1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4月	0	0	7	10月	0	0	6
5月	0	0	7	11月	0	0	6
6月	0	0	7	12月	0	1	5
7月	0	0	7	1月	1	0	6
8月	0	0	7	2月	0	0	6
9月	0	1	6	3月	0	1	7
				合計	1日	3人	7人

### 2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流や地域との交流のため、行事の企画と参加を支援した。

開催日	行事
8月29日	暑気払い
9月16日	敬老 月見会
12月23日	クリスマス会
1月13日	小正月 だんご飾り
2月3日	節分豆まき
3月3日	ひな祭り
3月17日	お彼岸 茶話会

### 3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	入居者数
デイケア	3人
デイサービス・訪問介護	1人

## 6 新潟水俣病リハビリ事業

### 1. らっくり体ケア教室利用状況

	新規 登録者数	登録者数	登録 終了者数	事業日数	延べ 利用者数	1日平均 利用者数
4月	0人	69人	0人	19日	217人	11.4人
5月	0人	69人	0人	19日	210人	11人
6月	0人	69人	1人	22日	250人	11.3人
7月	1人	69人	0人	20日	213人	10.6人
8月	0人	69人	2人	20日	186人	9.3人
9月	0人	67人	2人	20日	206人	10.3人
10月	1人	66人	1人	20日	222人	11.1人
11月	0人	65人	0人	20日	221人	11人
12月	0人	65人	0人	20日	194人	9.7人
1月	0人	65人	0人	19日	186人	9.7人
2月	0人	65人	0人	19日	193人	10.1人
3月	0人	65人	0人	13日	131人	10人
期間統計	2人		6人	231日	2,429人	10.5人

※1日定員:15人(1人週1回利用)祝祭日を除く、月曜日～金曜日実施。

## 2. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月11日 ～15日	お花見	・小花地ダムへ行き、花見を楽しんでいただく。
5月23日 ～27日	お楽しみ会	・参加者へお菓子の詰め合わせをプレゼントした。
6月22日 ～28日	お楽しみ会	・笹だんごを食べていただいた。
7月4日 ～8日	七夕会	・短冊を書いて飾り、七夕にちなんだお菓子を食べていただいた。
8月22日 ～26日	お楽しみ会	・茶話会でおしるこを食べていただいた。
9月12日 9月16日	敬老会	・喜寿、米寿、傘寿の方へお祝い品を贈呈。
10月24日 ～28日	お楽しみ会	・ハロウィンにちなんだお菓子の詰め合わせをプレゼントした。
11月7日 ～11日	お楽しみ会	・稲荷すしを作り、食べていただいた。
12月19日 ～23日	クリスマス会	・シュークリームを食べていただいた。
1月4日 ～11日	新年会	・お汁粉や甘酒を食べていただいた。
2月1日 ～8日	節分	・職員が鬼役となり、豆まきを行った。
3月1日 ～7日	ひな祭り会	・紙コップで雛人形を作成し、お昼にちらし寿司を食べていただいた。

## 7 外出支援サービス事業

### 1. 外出支援事業利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間実績
利用件数	6	4	9	8	6	8	8	7	10	5	9	6	86件
地域	郡内	4	2	5	5	3	8	5	5	7	4	4	56件
	郡外	2	2	4	3	3	0	3	2	3	1	5	30件

### 2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	87件	71件
転院移送	0件	0件
退院移送	10件	9件
外出移送	0件	0件
ワクチン接種会場へ移送	6件	6件
合計	103件	86件

月平均利用件数	7件
一件の平均距離	55.2 km
一件の平均所要時間	3.0 時間

## 8 東蒲の里みかわ園 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		新潟県老人福祉施設協議会 第1ブロック研修会(配信動画視聴)
		LIFE(科学的介護情報システム)の活用方法の実際
		第26回新潟県老人福祉施設研究大会(配信動画視聴)
		新潟県老人福祉施設協議会企画研修(web)

### 2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	・食中毒について	55人	55人	100%
	・身体拘束・高齢者虐待について I	55人	51人	92.7%
6月	・褥瘡予防について	55人	55人	100%
	・災害マニュアルについて	55人	55人	100%
7月	・救急法	55人	55人	100%
8月	・リスクマネジメントについて I	55人	48人	87.3%
	・認知症ケアに関する研修	55人	55人	100%
9月	・倫理及び法令遵守・個人情報保護・虐待予防について	55人	55人	100%
10月	・高齢者虐待について	55人	52人	94.5%
11月	・「口腔ケアについて」	55人	44人	80%
	・感染症対策実践について	55人	55人	100%
12月	・腰痛予防について	55人	55人	100%
	・安全で負担の少ないトランスファーを学ぶ	55人	55人	100%
1月	・防災マニュアルについて	54人	54人	100%
	・ターミナルケアについて	54人	54人	100%
2月	・リスクマネジメントについて	55人	55人	100%

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、資料配布や動画閲覧での研修方式で実施した。
- ・救急法は法人全体で阿賀町消防署を会場に少人数制で行った。



### 3. 研修報告(総括)

#### ① 外部研修

- ・前年度に続き、コロナ禍で Web 研修会が主流となった。
- ・救急法は、阿賀町消防署において人数制限を設け、法人内施設合同で実施した。

#### ② 内部研修

- ・Web 研修が主流となり、各委員会で Web 上での動画の選定や設問を準備し、研修期間を二週間程度に設定することで参加しやすくし、知識・技術の習得に努めた。

## 9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

## 10 東蒲の里みかわ園 災害対策

### 1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月24日	・火災想定避難訓練 夜間に火災が発生した想定で、初期消火訓練・通報訓練 避難訓練を実施し、阿賀町消防本部の講評後、消火訓練 を行った。	職員 11 名
10月28日	・火災想定避難訓練 日中に火災が発生した想定で、初期消火訓練・通報訓練・ 避難訓練を実施した。	職員 17 名
11月18日	・土砂災害及び地震災害避難訓練 日中に土砂災害及び地震災害が発生した想定で避難訓練 を実施した。	職員 27 名
10月19日	・火災想定避難訓練 日中に火災が発生した想定で、初期消火訓練・通報訓練・ 避難訓練を実施し、阿賀町消防本部の講評後、消火訓練を 行った。	職員 27 名 利用者 15 名

## 2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月3日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月19日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

## 11 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

### 苦情

<短期>

#### 1. ご利用者ご家族様より

退所送迎で自宅へ戻った母の靴下を脱がせると、左足の甲から小指にかけて内出血がありました。連絡ノートを見ても何も書かれておらず、利用前にはありませんでした。いつできたものなのか、確認してください。また、尿路感染症を起こしやすいため、尿の状況の記載をお願いしていたが、連絡ノートに記載がなかった。

- ・連絡を受けた際にご家族に謝罪し、職員に状況確認をして再度連絡することを伝えた。
- ・退所日の入浴時には、内出血などは見られず、その後に関わった職員も気づかなかった。内出血に至った状況を推測して予防策を徹底すること及び、連絡ノートの記載事項に漏れが無いようにすることを、ご家族に伝え謝罪した。

<要因:説明・情報不足>

苦情の発生件数

事業	件数
特別養護	0件
短期入所	1件
通所介護	0件
居宅支援	0件
合計	1件

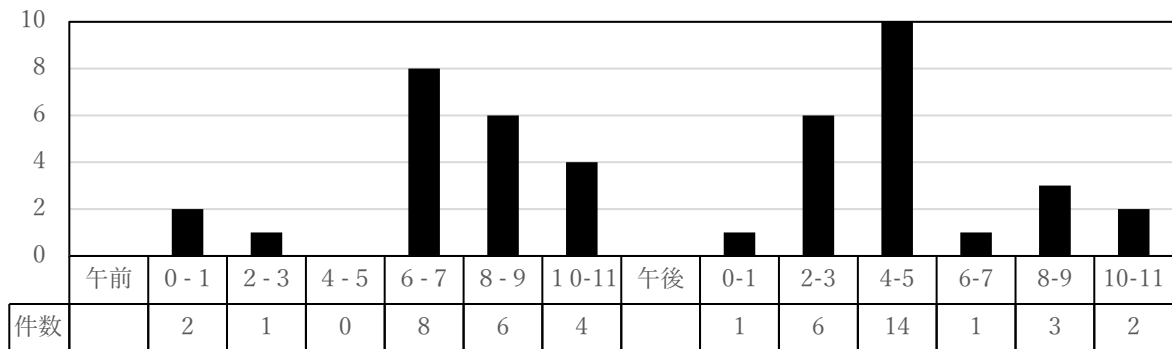
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	1件
職員の態度	0件
サービスの質	0件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	1件

## 12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数

(単位:件数)



〈 発生件数合計 48 件 〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	15件
食堂・ダイニング	11件
トイレ	4件
廊下・玄関	2件
浴室	6件
施設外	10件
その他	0件
合計	48件

### 3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	12件	2件
骨折	2件	1件
裂傷	17件	1件
打撲・皮下出血	0件	0件
チューブ抜去	0件	0件
無断外出	0件	0件
私物紛失・破損	1件	0件
異食・誤飲	2件	1件
誤薬・与薬もれ	2件	1件
車輛事故	8件	0件
その他	4件	0件
合計	48件	6件

#### 4. 事故報告

- ・前年度(29件)と比較して令和4年度は、19件増加した。車両事故が8件と多かったため、運転時の危険予知トレーニング研修を実施した、検討された各事故の再発予防策が確実に実施できているかを毎月、事故権利擁護委員会において検証していきます。

## IV 令和4年度社会福祉法人東蒲原福祉会

### ケアセンターどんぐり 事業報告

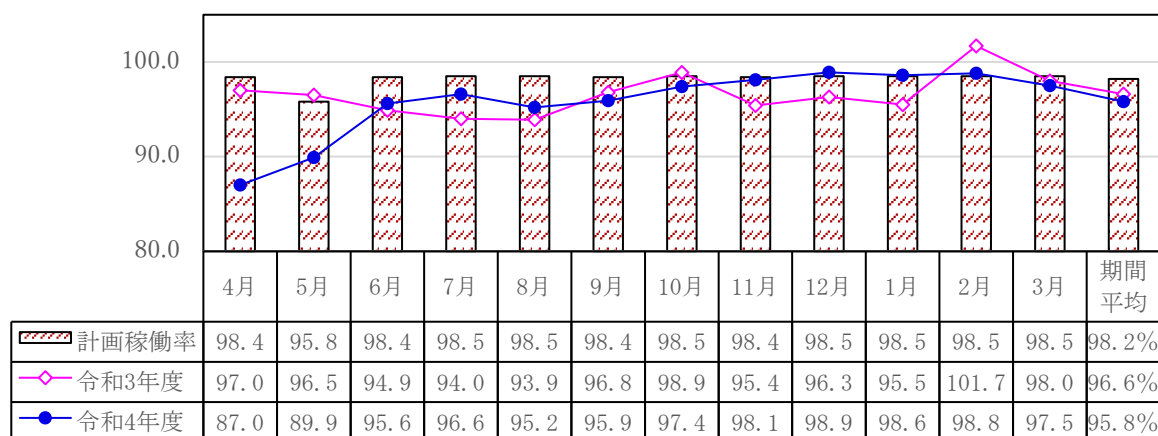
	頁
1. 短期入所生活介護事業	4 9
2. 訪問介護事業（介護保険）	5 3
3. 小規模多機能型居宅介護事業	5 7
4. 認知症対応型共同生活介護	6 2
5. 障害福祉サービス事業	6 6
6. まごの手サービス（介護保険外事業）	6 6
7. ケアセンターどんぐり研修報告	6 8
8. ケアセンターどんぐり災害対策	7 0
9. ケアセンターどんぐり苦情受付・対応報告	7 1
10. ケアセンターどんぐり事故等発生状況報告	7 2

# 1 短期入所生活介護事業

## 1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(21人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,342日であったことから

$7,342 \text{ 日} \div 7,665 \text{ 日} (21 \text{ 人} \times 365 \text{ 日}) = 0.9578$  稼働率 95.8%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

## 2. 要介護度別延べ利用日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	157	163	1,920	1,439	2,240	1,363	118	7,400日
令和4年度	165	23	1,552	680	3,168	1,626	128	7,342日

## 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	43	41	45	50	55	53	48	53	52	50	50	45	49人
延べ利用日数	548	585	602	629	620	604	634	618	644	642	581	635	612日

## 4. 平均介護度及び平均利用日数

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり月平均利用日数
令和3年度	1.34	6.6日	2.49	13.6日
令和4年度	1.11	3.7日	2.54	13.3日

5. 要介護度状態の変化(令和5年3月31日にご利用されている方を対象とします。)

内容	要支援	要介護
改善	0人	0人
維持	4人	40人
悪化	1人	6人
合計	5人	46人

6. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
7月27日	納涼会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景品があたる輪投げゲームに参加し楽しんで頂いた。</li> <li>・アイスアラモードを提供し、大変喜んでいただくことが出来た。</li> </ul>
9月20日	敬老会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶祝者がちゃんちゃんこを着て撮影した写真を色紙にしてプレゼントした。ご利用者に記念品や職員手作りのメッセージカードをお渡しし、喜ばれ涙を流される方がおられた。</li> </ul>
11月23日	秋の味覚祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具沢山の豚汁と炊き込みご飯を提供し、秋の味覚を味わっていただいた。おやつには秋を感じさせる大きなモンブランを召し上がってもらった。</li> </ul>
12月23日	クリスマス忘年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンタ帽子をご利用者皆様に被っていただき、クリスマスにちなんだ歌やゲームに参加していただいた。ゲーム内での景品も喜んでいただくことができた。</li> </ul>
2月3日	節分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者が作った手作りの豆をまき、鬼退治をしていただいた。おやつに人形焼きを召し上がってもらった。</li> </ul>

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

## 7. 事業報告(総括)

ご利用者の気持ちを尊重し信頼される職員を目指します。	
取組事項	① ご利用者に対する言葉使いや態度などに気をつけ、円滑なコミュニケーションが図れるよう取り組みます。
実績	① 職員がご利用者とコミュニケーションを取る時間が増えたが、ご利用者1人ひとりに合わせた言葉遣いが出来ていなかった。
課題と今後の取組	・ 言葉使いや表情などご利用者が安心できる言動を1人ひとり心掛け、職員間で注意しあえる環境を作りご利用者対応にあたる。

情報共有に努め、統一したケアの提供と介護技術の向上を目指します。	
取組事項	① オンライン会議やクラウドサービスの活用を定着させ、情報共有と業務効率化に取り組みます。 ② 介護現場の生産性向上のため、介護テクノロジー機器の導入に向けた検討を行ないます。 ③ 介護技術の向上と専門性を身につけるため資格取得を目指します。
実績	① Zoom を使用したオンライン会議を定着させることができた。また情報共有を図るため Slack を導入した事で、情報共有と業務の効率化に取り組むことができた。 ② 利用者の見守りや離床後の転倒予防の強化に努めるため、眠りSCAN 導入の検討を行ったが、機器の使用目的と事業所が改善したい目的に違いがあったため、導入できなかった。 ③ 介護福祉士国家試験を1名受験し合格することができた。
課題と今後の取組	・ 業務の効率化を図るために、利用者の安心安全に繋がる介護テクノロジー機器導入の検討を継続していく。 ・ 今後は個々のスキルアップの為の研修参加や資格取得も目指していく。



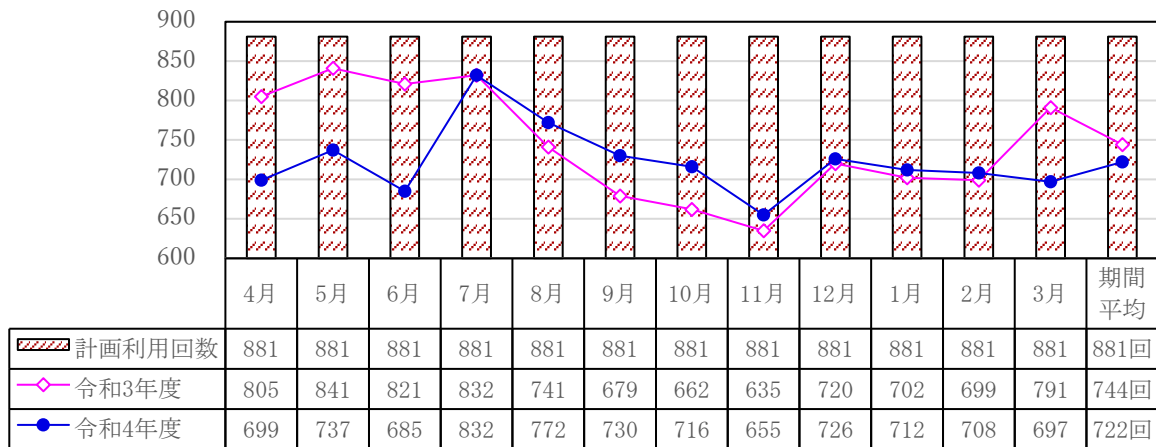
災害や感染症に対応できる体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害や感染症が発生した場合を想定し、対策マニュアルに基づいて動けるよう訓練を行います。</li> <li>② 発生した場合に利用者対応が滞らないよう、業務の優先順位を整理します。</li> <li>③ 介護従事者として社会の役割を理解し、感染症対策を継続します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年間を通じて避難訓練を含めた訓練を実施した。また感染症発生を想定したシミュレーションの実践はできなかったが、ゾーニング方法の検討やガウンテクニックのマニュアル作成を行うことが出来た。</li> <li>② 災害時に備え暖房や照明器具の準備を行っていたため、停電時にはご利用者に不安を感じさせないよう迅速な対応ができた。またコロナウイルス感染症の濃厚接触者に該当したご利用者がサービスを利用した際、感染症発生に備えた対策を行った。</li> <li>③ 介護従事者として感染症予防対策を徹底したことで、感染症の発生もなく事業を継続することができた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害と感染症に対応できる訓練を計画し実施する。</li> <li>・ 災害時にご利用者対応が迅速に行えるよう備品の確認を行う。</li> <li>・ 今後も介護従事者として社会の役割を理解し、感染症予防対策を継続していく。</li> </ul>

## 2 訪問介護事業(介護保険)

### 1. 訪問介護月別実績状況

(訪問回数)

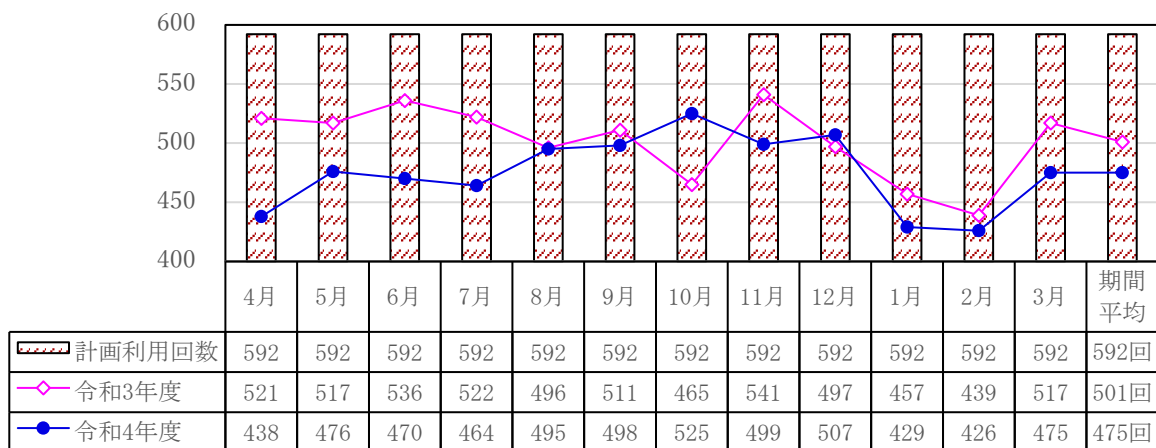
(単位:回)



### 2. 予防訪問介護月別実績状況 ※計画利用回数には事業対象者が含まれています。

(訪問回数)

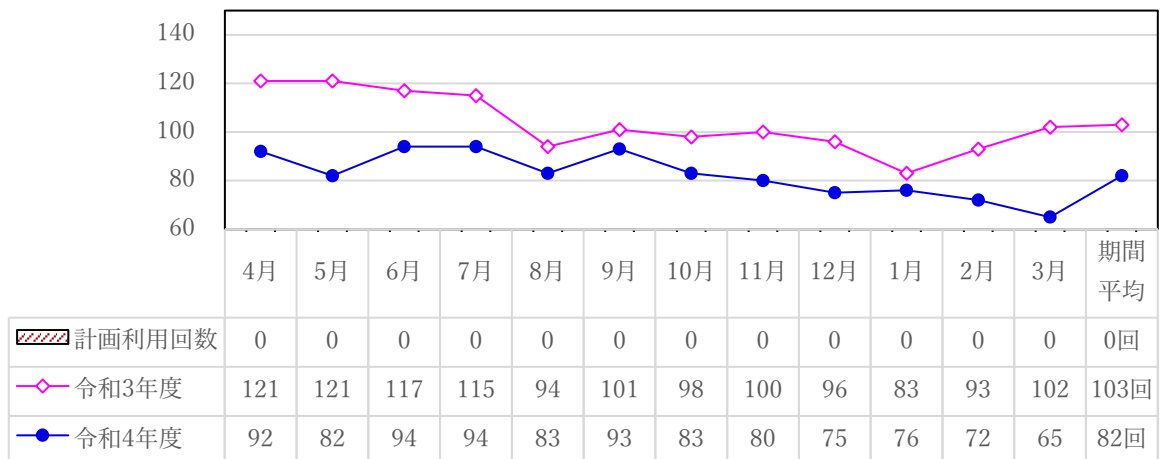
(単位:回)



### 3. 事業対象者訪問月別実績状況

(訪問回数)

(単位:回)



#### 4. 月別利用状況(予防訪問介護事業及び事業対象者訪問介護事業含む)

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4月	146人	1,374回	145回	1,229回	89.4%
5月	148人	1,434回	139回	1,295回	90.3%
6月	141人	1,300回	50回	1,250回	96.2%
7月	144人	1,426回	37回	1,389回	97.4%
8月	145人	1,471回	121回	1,350回	91.8%
9月	154人	1,422回	101回	1,321回	92.9%
10月	145人	1,392回	76回	1,316回	94.5%
11月	142人	1,323回	92回	1,231回	93.0%
12月	135人	1,423回	115回	1,308回	91.9%
1月	131人	1,317回	99回	1,218回	92.5%
2月	128人	1,214回	5回	1,209回	99.6%
3月	122人	1,314回	77回	1,237回	94.1%
計	1,681人	16,410回	1057回	15,353回	—
平均	140人	1,368回	88回	1,279回	93.6%

※稼働率について

予約を100%とし、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が15,353回で、予約数が16,410回であったため、

$15,353 \text{ 日 (利用実績)} \div 16,410 \text{ 日 (予約回数)} = 0.9355$  稼働率 93.6%

#### 5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4月	1人	0	0	2	4	6人
5月	4人	1	1	0	2	4人
6月	4人	0	1	0	2	3人
7月	9人	1	1	0	1	3人
8月	7人	2	0	1	0	3人
9月	8人	2	0	2	4	8人
10月	1人	4	0	1	2	7人
11月	8人	3	0	1	3	7人
12月	3人	3	0	0	3	6人
1月	3人	3	0	2	2	7人
2月	2人	2	1	2	2	7人
3月	3人	3	0	1	0	4人
計	53人	24人	4人	12人	25人	65人

## 6. 要介護度別延べ利用回数

	事業 対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	1,241	4,096	1,923	3,171	2,127	1,588	1,459	583	16,188回
令和4年度	989	3,889	1,805	2,648	1,514	1,889	2,211	408	15,353回

## 7. 平均介護度及び平均利用回数

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数
令和3年度	1.24	6.3回	2.18	9.9回
令和4年度	1.20	6.3回	2.16	8.6回

## 8. 事業報告(総括)

「人を大切にする」職場風土づくりに取り組みます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 挨拶や周囲への気遣いを心掛け、お互いを高め合える職員を目指します。</li> <li>② 価値観の多様性を学び、一人ひとりのご利用者、ご家族のニーズに応えます。</li> <li>③ エッセンシャルワーカーの自覚を持ち、健康管理や感染予防を徹底し、ご利用者が安心してサービスを受けられるよう、対策を講じます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 常に職員間や地域住民のかたへの挨拶を心掛けた。また、「ご利用者とご家族、職員間のコミュニケーション」の研修を10月に行い、コミュニケーションの重要性について理解を深めることができた。</li> <li>② ご利用者一人ひとりのライフスタイルや考え方に寄り添ったサービス提供ができるよう、毎月開催するサービス提供責任者会議で事例を挙げ個別の事例検討を行った。</li> <li>③ 全ヘルパーが、感染予防対策の徹底と、感染症発生時の報連相を理解し、PPEの着脱方法を定期的に復習した。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員間で、互いに不足する部分をフォローし合いチームプレイを意識して業務に取り組めるよう心掛ける。</li> </ul>

災害や感染症発生時でも、サービスが滞ることなく提供できる体制を整えます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① コロナ禍で培った経験から、テレワーク等のシミュレーションを定期的に行い非常時に備えます。</li> <li>② 訪問介護独自の災害時、感染症発生時のマニュアルを作成し、マニュアルに沿った訓練を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 法人内施設において感染症発生時には、テレワーク時に持ち出す物品リストの作成や衛生用品の公用車へ常備ができていたことでテレワークへの変更をスムーズに行うことができた。</li> <li>② 災害と感染症班に分れマニュアル作成に向け動き始めたが完成させることができなかった。 感染症発生時には早急に情報共有を図り、訪問予定調整を行ったことで訪問が滞ることはなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者が安心して自宅で生活できるよう、災害や感染症発生時の対応に備えていく。</li> </ul>

ICTの活用により訪問介護事業の生産性を高めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① クラウドサービスを活用し、ペーパーレス化をはかることで書類管理等の業務効率化を目指します。</li> <li>② クラウドサービスを活用できるように、職員一人ひとりが一定のIT機器の操作方法を習得します。</li> <li>③ ICTを活用した会議等を習慣化し定着させます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎月600～700枚の紙を使用し居宅介護事業所に提出していた請求レセプトをメールで送付することで紙の節約ができた。また、事務作業の手順をデータ作成し、標準化を図ることで、いつでも、誰でも同じ事務作業を行うことができるようになった。</li> <li>② 新しいアプリの操作が必要になっても、職員一人ひとりが積極的に操作方法を学ぶ姿勢がみられるようになった。</li> <li>③ 訪問介護事業で行う会議は全てZoomで行うようになった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員一人ひとりがIT操作を習得し、業務の効率化を目指す。</li> </ul>

### 3 小規模多機能型居宅介護事業

#### 1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
要支援1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3	1.7人
要支援2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1.5人
要介護1	9	9	10	11	11	12	12	12	12	12	12	11	11.0人
要介護2	5	5	5	4	4	4	3	2	1	2	2	1	3.2人
要介護3	3	3	4	4	4	3	4	4	6	6	6	7	4.5人
要介護4	3	2	3	2	3	3	2	1	0	0	0	0	1.6人
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.1人
合計	25	24	26	25	26	25	24	24	23	24	25	24	24.6人
稼働率	100	96.0	104	100	104	100	96.0	96.0	92.0	96.0	100	96.0	98.3%

※稼働率について

登録定員(25人)を100%とした場合の実登録者の割合を表しています。

1年間の延べ利用者数が295人であったことから

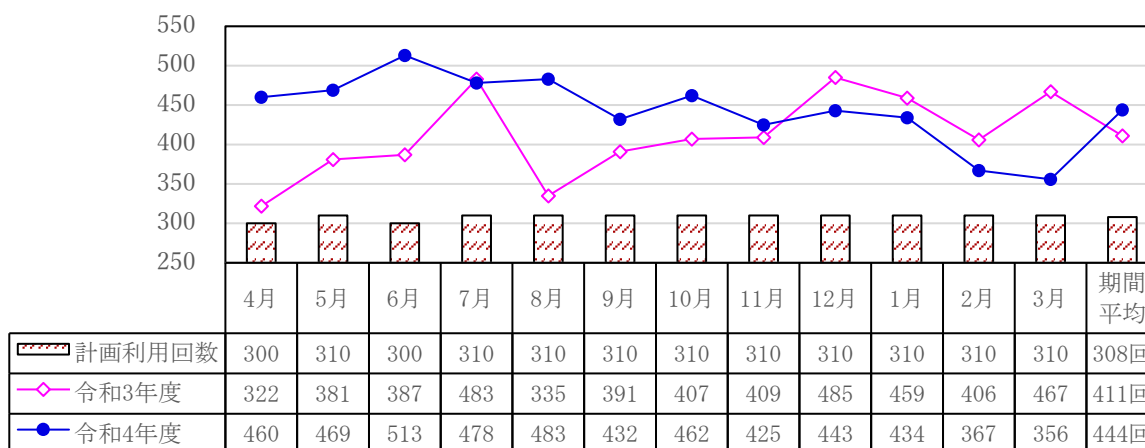
$295 \text{人(延べ利用者数)} \div 300 \text{人(登録定員 25人} \times 12 \text{カ月)} = 0.9833$  稼働率 98.3%

#### 2. サービス別稼働実績

##### (1) 訪問サービス

〈訪問回数〉

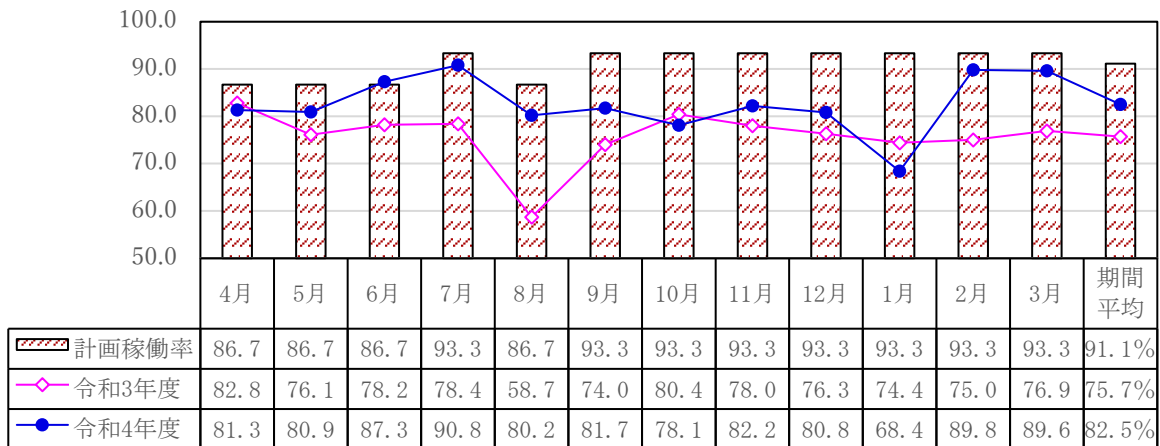
(単位:回)



(2) 通いサービス

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

通いサービスの1日定員(15人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表しています。

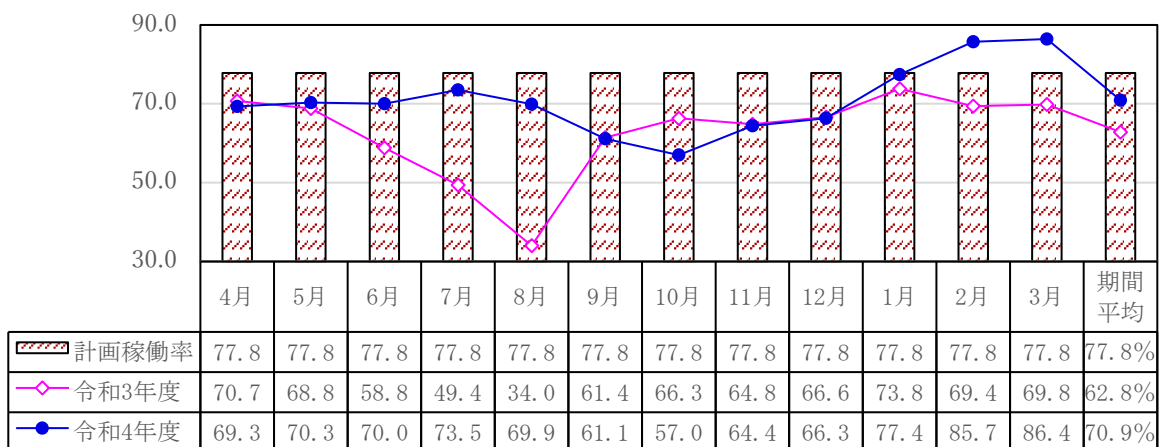
1年間の延べ利用人数が4,515人であったことから

$$4,515 \text{ 人 (延べ利用人数)} \div 5,475 \text{ 人 (定員 15 人} \times \text{実稼働日数 365 日)} = 0.8246 \text{ 稼働率 } 82.5\%$$

(3) 泊まりサービス

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

泊りサービスの1日定員(9人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表しています。

1年間の延べ利用人数が2,328人であったことから

$$2,328 \text{ 人 (延べ利用人数)} \div 3,285 \text{ 人 (定員 9 人} \times \text{実稼働日数 365 日)} = 0.7086 \text{ 稼働率 } 70.9\%$$

3. 平均介護度

	要支援	要介護
令和3年度	1.44	2.25
令和4年度	1.47	1.99

#### 4. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月	観桜会 ドライブ	・鹿瀬方面や城山公園にて桜の花を見ながら散歩し気分転換を図った。
8月	納涼会	・景品が当たるゲームを行い楽しんでいただいた。
9月	敬老会	・慶祝者の表彰や記念撮影、ご利用者全員に記念品を贈呈しお祝いした。
11月	秋の味覚祭	・とん汁や炊き込みご飯、おやつにはモンブランケーキを召し上がっていただいた。景品付きビンゴゲームで楽しんでいただいた。
12月	クリスマス忘年会	・職員がサンタに扮装し、ご利用者にプレゼントを渡した。職員の余興を楽しんでいただき、おやつにはケーキを召し上がってもらった。
1月	団子さし	・計画はしていたが、事業所内にて新型コロナウイルス感染症発生したため中止となった。
2月	節分	・鬼に扮した職員に向けて、ご利用者が豆をまき鬼退治していただいた。職員による寸劇を楽しんでいただいた。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。



5. 事業報告(総括)

ご利用者やご家族に信頼されるサービスの提供を目指します。	
取組事項	<p>① 気持ちの良い挨拶を心掛け、ご利用者やご家族が安心していただける声掛けを行うことで、利用して良かったと思っただけの事業所を目指します。</p> <p>② とうかん福祉サービスの訪問介護研修や外部研修への参加で、専門職としての知識を身につけ、根拠に基づくサービス提供に努めます。</p> <p>③ 専門職として各種資格の取得に努めます。</p>
実績	<p>① ご利用者が来所時、また訪問時など元気のよい挨拶を心掛けていた。また、ご家族の要望など職員が丁寧な対応を行い、情報の共有を図るよう努めた。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症予防のため、訪問介護同行研修を実施することはできなかったが、訪問介護の経験豊富な職員が講師となり、事業所内での研修を行った。また、認知症実践者研修、管理者研修に各1名ずつ参加し専門的知識の習得を行った。</p> <p>③ 介護福祉士資格取得のため、1名が国家試験を受験したが不合格だった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修への積極的な参加で、専門職としての知識を習得する。</li> </ul>

ICTを活用した情報共有で、業務の改善を図ります。	
取組事項	<p>① 積極的な ICT の活用に取り組めるよう、活用方法や機器の理解を深めます。</p> <p>② オンライン会議やICTを活用した情報共有で、業務の改善を図り、介護サービスの生産性を高められるよう取り組んでいきます。</p>
実績	<p>① リーダーが中心となり、積極的な ICT の活用に向け、操作方法や機器の理解に努めた。</p> <p>② 職員一人ひとりがいつでも情報を確認、発信できるよう、アプリケーションを導入したことで、スムーズなご利用者への支援に繋がっている。また、各種会議についてもオンラインでの参加により、職員の業務の負担軽減に繋がった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入された機器の活用についてさらに理解を深め、業務の効率が図れるように努めます。</li> </ul>

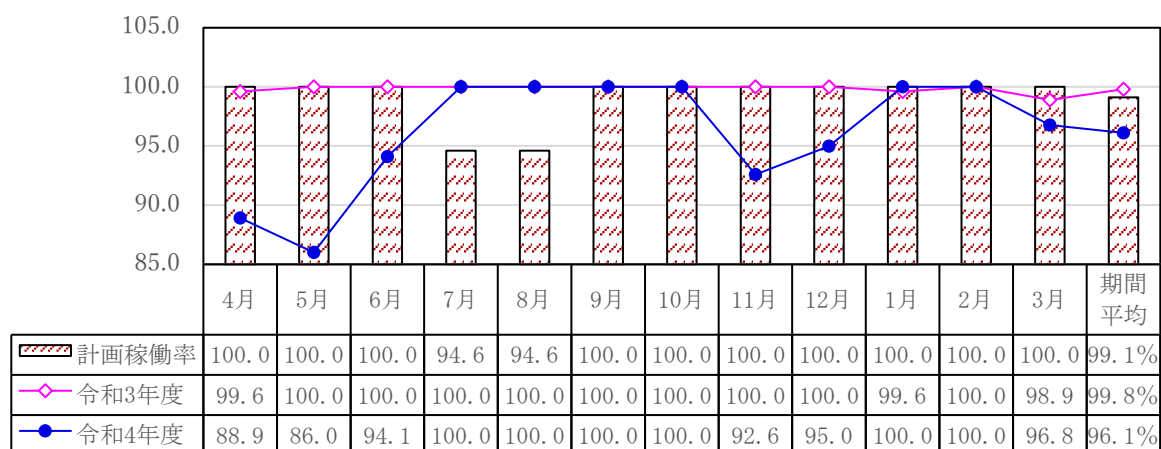
感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが継続的に提供できる体制を構築します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 感染症予防、についての取り組みの継続と、感染症が発生した場合のシミュレーションを行います。</li> <li>② 災害対策マニュアルに基づいて動けるよう訓練を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 1月、事業所内にてコロナウイルス感染症発生。実際の対応を踏まえ、収束後反省会を行った。反省点、改善点を明確にし、今後の感染拡大予防につなげられるよう周知した。</li> <li>② 避難訓練を実施した。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症や、災害を想定した訓練の計画と実施を行っていく。</li> </ul>

## 4 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

### 1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(9人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,157日であったことから

$$3,157 \text{ 日} \div 3,285 \text{ 日} (9 \text{ 人} \times 365 \text{ 日}) = 0.9610 \text{ 稼働率 } 96.1\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

### 2. 要介護度別入所者数(令和5年3月31日現在)

	要支援	要介護度					期間平均
	2	1	2	3	4	5	
令和3年度	0	2	3	2	1	1	2.6
令和4年度	0	3	2	2	1	1	2.4

### 3. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
4月	花見	・三川方面へ花見に出かけ、三川の懐かしい景色を楽しまれた。
5月	母の日	・希望の多かった「食堂ぽっぽ」から出前を取り、ラーメンを召し上がっていただいた。
6月	プリンアラモード作り	・果物を切っていただき、各自で好きな果物を盛り付け食べていただいた。
7月	七夕会	・短冊に願いを書き、笹の葉に飾っていただいた。昼食は流しそうめんを行い、みなさん楽しそうに食べられた。
8月	納涼祭	・スイカ割やヨーヨー釣り、お神輿を楽しんでいただいた。
9月	敬老会	・慶祝者をお祝いした。また、あんことごまの団子を作り召し上がっていただいた。
10月	ハロウィンパーティ	・ご利用者と職員全員がハロウインの仮装をし、沢山の写真を撮って楽しんだ。
11月	紅葉狩り	・外の景色を楽しみながら、三川きのご園へ出掛けた。きのご園ではきのこ汁とワラビを食べ喜ばれていた。
12月	クリスマス会 忘年会	・ご利用者にクリスマスカードとプレゼントをお渡しし、余興として職員の踊りを楽しんでいただいた。
1月	小正月団子さし	・色とりどりの粘土を団子にみたてて丸め、枝にさしていただいた。
2月	節分	・新聞紙を丸め「鬼は外、福は内」と鬼役の職員に向けて投げ、鬼を追い払い・福を呼び込んだ。

※行事開催時には、新型コロナウイルス感染症予防を徹底して実施し、施設全体での行事は行わず、各事業で縮小して行った。

#### 4. 事業報告(総括)

<p>自立支援・重度化防止を意識し、認知症の方へ適切な対応ができる職員を目指します。</p>	
<p>取組事項</p>	<p>① 認知症実践者研修や WEB セミナーに積極的に参加し、認知症ケアの専門職として、知識を身に付けスキルの向上を図ります。</p> <p>② 根拠に基づき、科学的に効果が裏付けられたケアや環境作りを行うことで質の高いサービスを提供します。</p> <p>③ 介護福祉士資格など各種資格取得に努めます。</p>
<p>実績</p>	<p>① 1名が認知症実践者研修へ申込を行ったが参加不決定となり参加できなかった。また、外部研修への参加はコロナ感染症の状況を踏まえながら積極的な参加とはならなかったが、事業所で認知症に関する研修を行いスキルの向上に努めた。</p> <p>② 根拠に基づく考えが定着するよう、情報交換や共有時の発言を意識して行う環境づくりを行った。</p> <p>③ 1名が介護福祉士資格を受験したが不合格であった。</p>
<p>課題と今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の認知症ケアに関する能力に差があるため、認知症ケアに関する研修等に積極的に参加し、全職員が統一したサービスを提供できるよう取り組みを行う。</li> </ul>

認知症の進行を緩和し、安全で快適な暮らしができる環境づくりに努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 挨拶を基本とした適切な言葉遣いや周囲への気遣いができるよう現状把握から定着までチーム全体で取り組みます。</li> <li>② ご利用者の日常生活が心穏やかで豊かなものになるよう、対人援助スキルを磨きます。</li> <li>③ 導入された ICT をフル活用できるよう機器の理解と活用方法の理解を深めます。また、介護現場における介護テクノロジー機器の導入や AI 導入について検討を行い、介護サービスの生産性向上を目指します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全職員が「挨拶を基本とした適切な言葉遣い」とは何かについて定期的に話し合いを行い実践へつなげる取り組みを行った。</li> <li>② ご利用者の意志の尊重や決定の重要性について職員間で話し合い、認知症ケアと合わせて対人スキルの大切さを理解することができた。</li> <li>③ 導入されているタブレットシステムを有効的に活用できるよう、システムメニューを再度確認し、現場活用できるものを職員へ周知し実践に繋げた。また、介護テクノロジー機器はデモ用品を借り、評価と検証を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風化させることなく、取り組みを継続しながらより良い環境づくりを目指していく。</li> </ul>

感染症や災害発生時でもサービスが継続的に提供できる体制を構築します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 感染症に対する知識を身に付け、万が一に備えシミュレーションを行います。</li> <li>② 災害時には地域との連携が図れるよう、地域の方と一緒に訓練を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新型コロナウイルス感染症の対応など、更新されていく情報を確実に取得するため開催される感染症研修に参加し、有事に備えることができた。</li> <li>② 地域と連携が図れるような取り組みは行うことができなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症発生に備えて、継続的にシミュレーションなどを実施していく。</li> <li>・ 地域と連携が図れるよう、地域に出向き話し合いを行う。</li> </ul>

## 5 障害福祉サービス事業

### 1. 月別利用状況

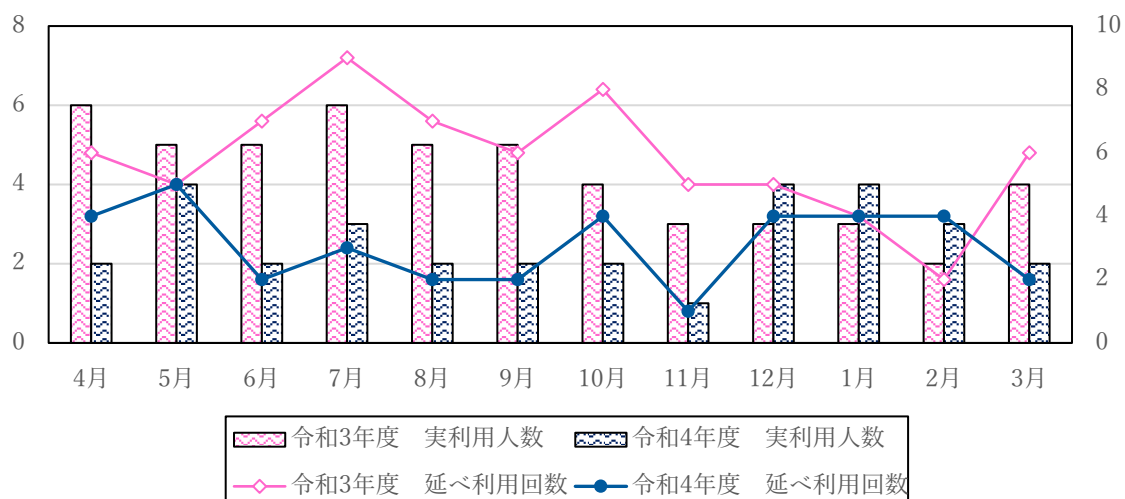
月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	15	15	15	15	15	13	15	15	16	15	16	15	180人
延べ利用回数	173	173	160	166	163	142	189	163	171	160	150	165	1,975回

## 6 まごの手サービス(介護保険外事業)

### 1. 月別利用状況

(実利用人数)

(延べ利用回数)



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (令和3年度)	6	5	5	6	5	5	4	3	3	3	2	4	51人
実利用人数 (令和4年度)	2	4	2	3	2	2	2	1	4	4	3	2	31人
延べ利用回数 (令和3年度)	6	5	7	9	7	6	8	5	5	4	2	6	70回
延べ利用回数 (令和4年度)	4	5	2	3	2	2	4	1	4	4	4	2	37回

### 2. 「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数	4	4	3	4	3	3	6	3	3	3	3	3	42人
延べ利用回数	146	80	91	142	100	104	160	102	102	90	79	95	1,291回

### 3. 事業報告(総括)

独居やご家族の就業によって一人である時間の不安や心配を軽減します。	
取組事項	① 介護保険サービスと見守り安心確認サービスを組み合わせて利用することで、在宅生活の継続が可能であることを提案します。
実績	① 見守り安心確認サービスはLINEを導入し、離れて生活するご家族や就労で不在にしているご家族にリアルタイムで訪問時の様子をお伝えすることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>何かあった時、見守り確認サービスを柔軟に活用することで利用者や家族が安心した自宅での生活を続けられるよう、家族とのコミュニケーションや対応について認識の統一を図っていく。</li> </ul>

在宅サービスを利用中に家族が対応できない受診介助を行い、家族の負担軽減を図ります。	
取組事項	① 在宅サービス事業所と情報の共有を図り、スムーズな受診介助を行います。
実績	① 利用中のショートステイでの様子や、医療機関に伝達すべきことについて、受診の前に確認を行い連携ノートに記載してもらうことでスムーズに受診介助が行えた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診時の様子や受診結果の報告を利用中のショートステイに行っているが、ご家族への連絡についてLINEの導入を検討する。</li> </ul>



## 7 ケアセンターどんぐり 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	認知症介護実践者研修
		認知症介護基礎研修
		喀痰吸引等研修(基本研修)
		喀痰吸引等研修(演習)
		安全運転管理者等講習会
		指定障害サービス事業所集団指導
		地域密着型サービス事業所集団指導
		認知症対応型サービス事業管理者研修
		生産性向上の取り組みに関するセミナー実践報告会
		COVID-19 集団感染が発生した病院・施設における管理者研修

## 2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	接遇、介護現場におけるコミュニケーション	55人	55人	100%
6月	緊急時と事故発生の対応に関する研修	55人	55人	100%
7月	救急法(WEB研修・実技研修)	55人	55人	100%
8月	リスクマネジメント 生活習慣病について	57人	56人	98%
10月	吐物処理 火災水害時の対応	57人	57人	100%
11月	高齢者の病気と食事に関する研修	59人	58人	98%
12月	口腔ケアの質を上げるための研修	59人	59人	100%
1月	非常災害時に関する研修	58人	58人	100%
2月	認知症研修	55人	53人	96%
3月	法令順守、人権擁護、身体拘束虐待	55人	53人	96%

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、資料配布や動画閲覧での研修方式で実施した。
- ・救急法については、消防署で少人数毎のグループで参加した。

## 2. 研修状況

### ① 外部研修

- ・新型コロナウイルス感染症予防により、オンラインを活用した研修参加でしたが、大型ディスプレイを使用することで複数の職員の参加が可能となり、研修内容について共有することができた。
- ・資格取得につながる研修については、積極的に参加することができスキルの向上につなげることができた。

### ② 内部研修

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策のため職員が集まる研修は行えなかったが、資料配布や動画閲覧での研修方式にて個々のスキル向上及び理解を深めることができた。

## 8 ケアセンターどんぐり 災害対策

### 1. 緊急連絡網

- ・4月1日付で、緊急連絡網作成

### 2. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
7月26日	・日中想定 阿賀町消防署職員立ち合いのもと、事業所毎に避難訓練を行った。	職員 23名 利用者 39名
3月9日	・夜間想定避難訓練 阿賀町消防署職員立ち合いのもと、夜間帯の勤務にあたる職員主体で避難訓練を行った。	職員 29名 利用者 38名

※消火訓練はコロナウイルス感染症予防のため中止

### 3. 消防設備点検

開催月日	点検内容
12月5日	・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラー等の消火設備、火災報知器、自家発電設備の設備点検を行った。
その他	・毎月消防用設備等の自主点検を実施

### 4. 消防立ち入り検査

開催月日	指摘内容
6月7日	・消防計画未変更(職員移動に伴う変更) ※7月30日に「変更届出書」を提出

## 9 ケアセンターどんぐり 苦情受付・対応報告

### 苦 情

<短期入所>

#### 1. 利用者ご家族より

東蒲の里でも何回も転倒したと連絡が来る。どんぐりはどうなっているんだ。センサーがついているなら何故すぐに行かないのか。怪我はしていないのか、骨は折れていないのか。介護職員が見てもわからないだろう、ナースには診てもらっているのか。東蒲の里でも何回も同じ事故があった。その時は、施設長と課長から改善した対応方法の説明を受けた。

まず、今後の対応方法を教えてもらいたい。

- ・ご家族に事故の状況報告と謝罪を行い、対応方法を検討し報告することを伝える。
- ・東蒲の里で行っている対応方法を確認し、居室に設置するセンサーの位置や受信機の音量など点灯を防ぐための対応方法を、係長とリーダーで検討を行った。
- ・ご家族に報告するため係長がご自宅に伺い、検討した対応方法について説明を行った。
- ・事業所の全職員に対処方法を統一するため周知を行った。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

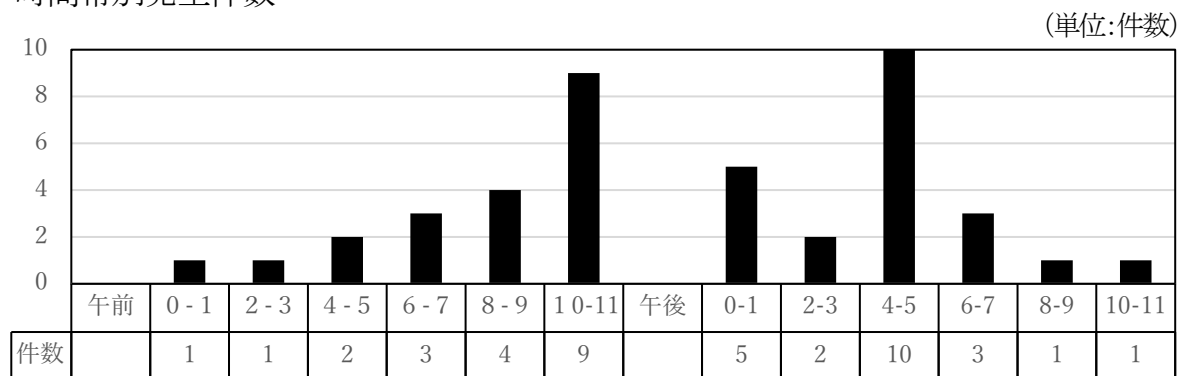
事業	件数
訪問介護	0件
短期入所	1件
小規模多機能	0件
グループホーム	0件
合計	1件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	1件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	1件

## 10 ケアセンターどんぐり 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数



〈 発生件数合計 42 件 〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	10件
食堂・ダイルーム	14件
トイレ	1件
廊下・玄関	1件
浴室	2件
施設外	3件
利用者自宅	4件
その他	7件
合計	42件

### 3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	10件	0件
骨折	2件	2件
裂傷	3件	0件
打撲・皮下出血	1件	0件
チューブ抜去	0件	0件
無断外出	1件	1件
私物紛失・破損	2件	0件
異食・誤飲	0件	0件
誤薬・与薬もれ	17件	1件
車輛事故	1件	0件
その他	5件	0件
合計	42件	4件

#### 4. 事故等発生状況総括

- ・事故発生件数について、令和4年度は42件となり、令和3年度の64件から22件減少している。
- ・事故の内容について、誤薬・与薬もれが17件と最も多く、次いで転倒・転落が10件となっている。件数は減少しているが、服薬関連の事故については類似した状況での事故が続いており、服薬のチェックや職員間の声掛け・確認といった改善策の実施が徹底されていない事が要因となる。
- ・今後、改善策が継続して実施されているか、評価・再検討を行い、事故の再発防止に取り組む。また、研修等を通じて、職員の事故防止に対する意識の向上に取り組んでいく。

## V 令和4年度社会福祉法人東蒲原福社会

### ほっとサポートとこなみ 事業報告

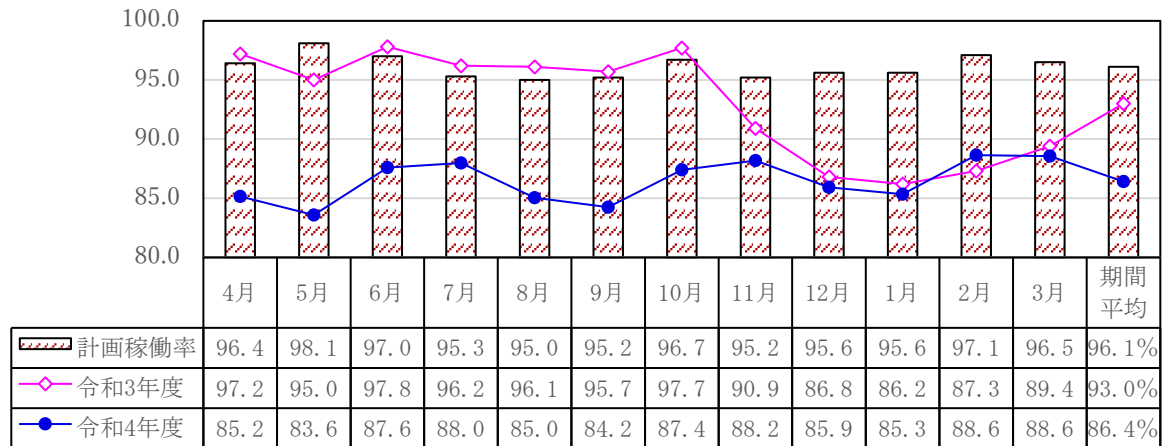
	頁
1. 障害者共同生活援助事業（グループホーム）	74
2. 障害者短期入所事業（ショートステイ）	77
3. 障害者生活介護事業	79
4. 就労継続支援B型事業	82
5. 放課後等デイサービス事業	85
6. ほっとサポートとこなみ研修報告	88
7. ほっとサポートとこなみボランティア活動状況	89
8. ほっとサポートとこなみ災害対策	90
9. ほっとサポートとこなみ苦情受付・対応報告	91
10. ほっとサポートとこなみ事故等発生状況報告	91

# 1 障害者共同生活援助事業(グループホーム)

## 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(11人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,471日であったことから

$3,471 \text{ 日} \div 4,015 \text{ 日}(11 \text{ 人} \times 365 \text{ 日}) = 0.8645$  稼働率 86.4%

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

## 2. 障害区分別入所者数(令和5年3月31日現在)

	障害区分						期間平均
	1	2	3	4	5	6	
令和3年度	0人	4人	3人	2人	1人	0	3.0
令和4年度	0人	4人	2人	3人	1人	0	3.1

## 3. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
12月25日	クリスマス会	・各ホームで、クリスマスメニューの食事を行った。



#### 4. 事業報告(総括)

感染症予防を継続的に行いながら、ご利用者一人ひとりの過ごし方や目標に向けた生活が安心して送れるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 法人の定める感染症予防対策の徹底と感染症に対する職員の意識向上を図ります。</li> <li>② ご利用者個々の希望する生活や社会参加が可能な限り送れるよう常に新しい情報の確認と職員間の共有を図り支援に関わります。</li> <li>③ 災害や火災発生時における避難場所の確認と、防災マニュアルの作成を行います。また、備蓄品の整備を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 定期的に感染症予防対策の確認を行うことで、職員の感染症への意識を高めることができた。</li> <li>② 集団での行動を減らし、個々での外出等の支援を行った。</li> <li>③ 備蓄品の入れ替えを行い、全職員にわかりやすいように整理した。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、新しい生活様式に対応した関わり方や社会参加への支援の仕方を検討し実施します。</li> </ul>

日々のコミュニケーションおよび相談を重視し、ご利用者とのより良い関係を築き生活の質の向上に繋がります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者やその家族、関係機関と接する際、接遇マナーの基本を元とし、より良いサービスの提供に努めます。</li> <li>② 休日や余暇時間の過ごし方をご利用者と一緒に考え、楽しみや希望に沿える過ごし方ができるよう支援します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者から聞いた要望や相談を、職員間で共有した。</li> <li>② 休日や余暇についての希望の聞き出しが不足だったため、計画を話し合うところまでに至らなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々のコミュニケーションをとおり、趣味や興味のあることを引き出し、楽しみや希望に沿えるよう支援を行います。</li> </ul>

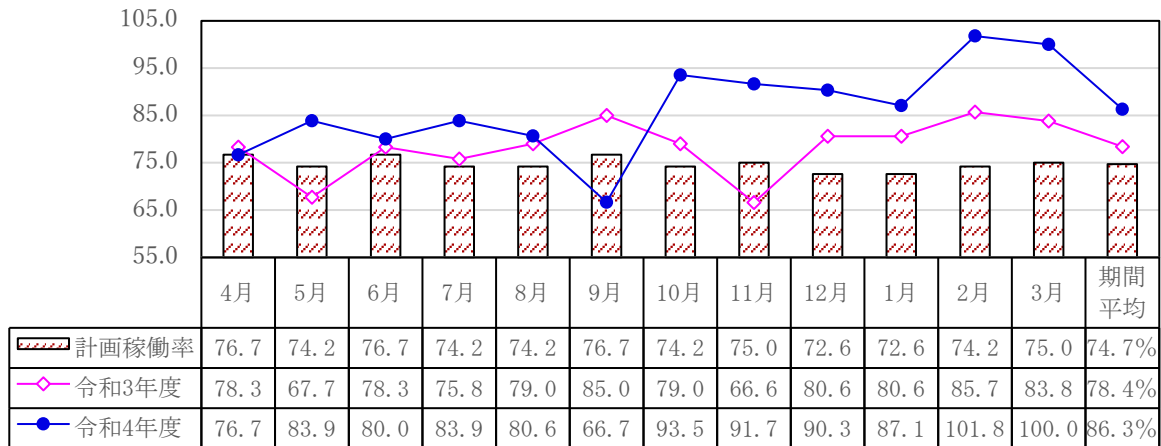
IT・ICTの活用を検討し、業務の効率化・職員間の連携や研修、ご家族との情報伝達などに取り組みます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① IT・ICTに関する職員研修を行い、必要性の把握と活用に向けた検討を行います。</li> <li>② 利用者の障害の特性に合った支援が行えるよう、生活支援員や世話人の勉強会を実施するとともに、ITを活用した研修の機会を増やすことで職員のスキルアップを図ります。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 伝達ツールの活用が不十分だったため、職員間や他事業への連絡がスムーズにいかず、情報共有までに時間を要した。</li> <li>② 会議において、障害の特性や支援方法について話し合いを行い再確認の機会を設けた。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループホームでのご利用者の様子を発信できる方法を検討します。</li> <li>・ IT・ICT に関する勉強会を実施し、活用方法、業務の効率化について検討します。</li> </ul>

## 2 障害者短期入所事業(ショートステイ)

### 1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(2人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が630日であったことから

$$\frac{630 \text{ 日}}{730 \text{ 日} (2 \text{ 人} \times 365 \text{ 日})} = 0.8630 \text{ 稼働率 } 86.3\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

### 2. 障害区分別延べ利用日数

	児 童			成 人						計
	1	2	3	1	2	3	4	5	6	
令和3年度	0	0	106	0	100	146	88	132	0	572日
令和4年度	0	0	72	0	191	203	24	112	28	630日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	12	12	12	11	11	11	11	11	12	12	12	12	11.6人
延べ利用日数	46	52	48	52	50	40	58	55	56	54	57	62	52.5日

### 4. 平均支援区分及び平均利用日数

	児 童		成 人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
令和3年度	3.0	8.8日	3.5	4.5日
令和4年度	3.0	4.8日	3.5	4.9日

## 5. 年間行事報告

行事については障害者共同生活援助部門と合同で開催した。

## 6. 事業報告(総括)

ご利用者、ご家族の要望を伺いながら、自宅で過ごす時と変わらない生活を送れるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自宅での生活リズムや習慣を理解し、利用時も同じような生活リズムで過ごせるよう支援します。</li> <li>② 感染症について、ご利用者・ご家族への注意喚起を行います。また、感染症発生状況に応じて利用の確認や情報の発信を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用者、ご家族、関係機関から話を聞き、自宅での生活に近づけるよう支援を行った。</li> <li>② 法人の感染症予防対策に基づき、ご家族への注意喚起を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショート利用時でも自宅と同じ生活リズムや習慣で過ごすことができるよう支援します。</li> </ul>

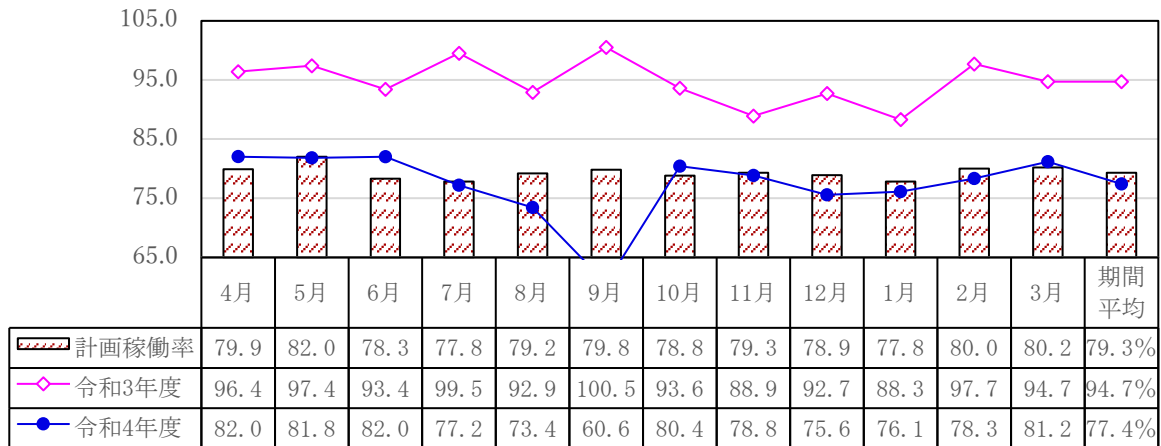
日中活動事業所や関係機関と情報の共有を図り、利用ごとに変化があっても柔軟に対応が出来るよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用前に状況の確認を行い、状態に合わせた対応を行います。</li> <li>② 緊急的利用が必要となった方への対応も速やかに行えるよう相談員や関係機関と情報共有、受け入れ状況の提供など定期的に行い体制を整えます。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 送迎時に、ご利用者及びご家族の体調や状態の確認をし、その都度職員間で情報を共有し対応した。</li> <li>② 家族・関係機関と調整を行い緊急時の利用希望に応えられるよう調整を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者の状態変化、状況の確認を行い、適切な対応が行えるよう検討します。</li> </ul>

### 3 障害者生活介護事業

#### 1. 施設利用稼働率

(稼働率)

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(9人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,777日であったことから

$$1,777 \text{ 日} \div 2,295 \text{ 日} \langle 9 \text{ 人} \times 255 \text{ 日} \rangle = 0.7742 \text{ 稼働率 } 77.4\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

#### 2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
令和3年度	0	371	480	582	591	167	2,191日
令和4年度	0	74	472	521	573	137	1,777日

#### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	14	14	14	14	14	14	15	12	12	14	14	14	14人
延べ利用日数	155	162	155	146	152	120	152	149	136	141	141	168	148日

#### 4. 平均障害区分及び平均利用日数

	成人	
	平均支援区分	利用者1人あたり月平均利用日数
令和3年度	3.86	12.59日
令和4年度	4.13	12.00日

## 5. 年間行事報告

開催日	実施行事	内 容
12月23日	クリスマス会	・ケーキを一人ひとりにプレゼントを渡した。

## 6. 事業報告(総括)

ご利用者が安心して通所できるよう、感染症の予防に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ご利用時、朝・昼の検温を行い、体調不良の早期発見に努めます。また、定期的に事業所内の換気や消毒を行います。</li> <li>② 体調不良者が出た場合には、早急に関係機関に連絡を行い、他利用者の体調確認を行います。</li> <li>③ 体調不良者と感染症対策の情報を他事業所と共有します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日、朝・昼の検温と、定期的に事業所の換気、消毒を行なった。</li> <li>② 他事業所と連絡を取り、状況の確認を行った。他事業所と話し合い休みの調整を行なった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症予防に取組みながら、今後もご利用者にあつた活動内容の提供を行います。</li> </ul>

災害等の発生時も事業を継続できるよう体制を整備します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 営業時間内の災害発生時には利用者の安全を最優先し、家族や事業所に送り届けられるよう連絡や調整を行います。</li> <li>② 災害時に被害が最小限となるように、障害事業独自の災害マニュアルを作成します。</li> <li>③ 防災備蓄品の点検や避難訓練を定期的に行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大雨の際に、ご利用者の安全を考え、送迎時間を早める帰宅調整を行なった。</li> <li>② 災害マニュアルを作成しました。</li> <li>③ 7月と10月に避難訓練を行なった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害マニュアルの変更を継続して行います。</li> </ul>

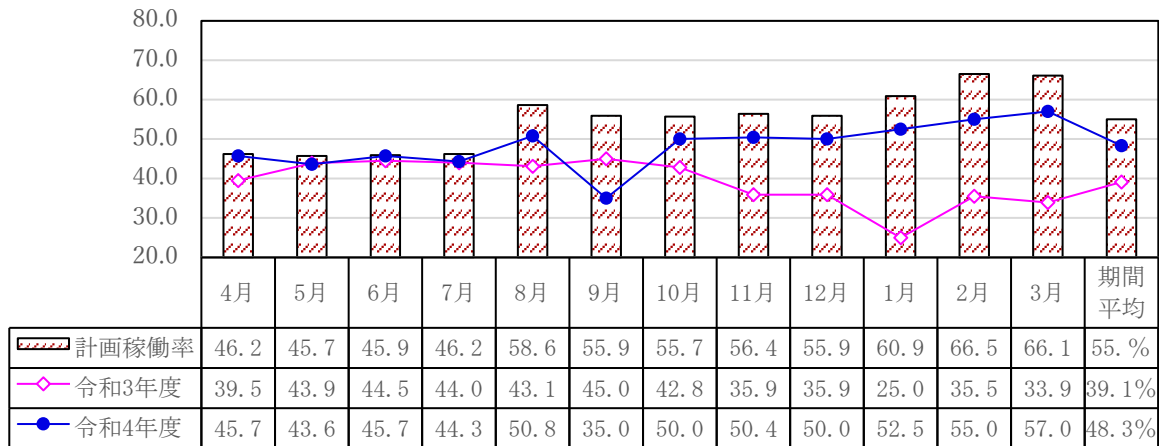
IT・ICTを活用し、事業の効率化を図るとともに職員のスキルアップを図ります。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 連絡帳を利用されている方に、SNS等の利用が可能か確認を行います。利用可能なご家族にはSNSを活用した迅速な情報伝達に努めます。</li> <li>② 職員がリモートを活用した会議の習熟するよう指導を行い、様々な場面でオンライン会議を実践します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者の家族に高齢な方が多く、情報伝達が迅速に回らないと判断したため、SNSを活用しなかった。</li> <li>② ITを活用し、オンライン研修への参加を行った。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS、IT機器の活用ができるよう、職員のスキルアップを図り、会議やミーティング等に活用していきます。</li> </ul>

## 4 就労継続支援B型事業

### 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(10人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,246日であったことから

$$1,246 \text{ 日} \div 2,580 \text{ 日} (10 \text{ 人} \times 258 \text{ 日}) = 0.4833 \text{ 稼働率 } 48.3\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

### 2. 障害区分別延べ利用日数

	障害支援区分						計
	1	2	3	4	5	6	
令和3年度	0	235	531	145	73	0	984日
令和4年度	26	570	425	0	225	0	1,246日

### 3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	5	5	5	5	6	6	6	6	7	7	7	7	6人
延べ利用日数	96	96	96	93	117	76	105	111	110	105	110	131	103日



#### 4. 作業収入及び支払報酬

相手先	作業内容	金額
東蒲原福祉会	ベランダ清掃、車両洗車、車いす清掃等	120,000 円
どんぐり	施設内清掃	240,000 円
山から株式会社 コンビリー	コンビリー店内清掃、紙袋作り、グラノーラ袋入れ、阿賀の里トイレ掃除	1,121,630 円
麒麟山酒造	シール貼り	3,546 円
作業収入計…①		1,505,666 円
支出	材料費等の経費	25,888 円
	消費税	51,500 円
経費支出計…②		77,388 円
収支差額(支払工賃原資)…③=①-②		1,428,278 円
月別実利用者数計…④		72 人
平均工賃 (他事業所と併用利用されている方の工賃を除く)		21,473 円

#### 5. 事業報告(総括)

ご利用者の将来を見据え、接遇や社会のルールを伝えられるように資質の向上に取り組みます。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日頃から職員は言葉使いや挨拶、勤務態度に注意し、ご利用者の手本となります。</li> <li>② 係長や管理者が中心となって、人事考課における共通事項の確認を定期的に行い、職員の資質向上に努めます。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員が利用者に適切な挨拶を見せることで、利用者の挨拶も適切な挨拶ができるようになった。</li> <li>② 人事考課の共通事項のできていないことを確認し、報告や連絡についての指導を行いました。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者の将来を考え、将来に活かせる作業内容を検討します。</li> </ul>

災害発生時に備えて対応状況や避難方法が分かりやすいように活動時の体制を整備します。	
取組事項	① 各災害時に被害が最小限で済むように、送迎ルートを考慮し、施設外作業のご利用者の再編を行います。
実績	① 阿賀の里やみかわ園の作業には、五泉・三川方面から来ている利用者の方に行ってもらった。 また、大雨で送迎が難しい時には、早めに判断を行い利用者が混乱しないよう対応した。
課題と今後の取組	・ 施設外へ作業に出ている利用者・職員への連絡方法を検討します。

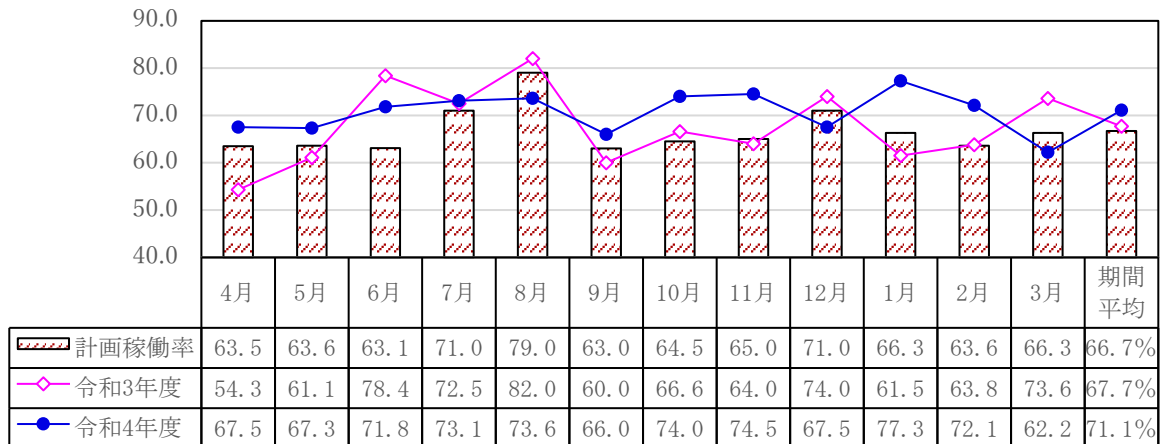
ITやICTの活用に取り組みます。	
取組事項	① 連絡帳を利用されている方に、ITの活用による情報伝達と情報共有が可能か確認を行い、可能なご家族からITの導入を進め、情報伝達に努めます。 ② 職員がリモートを活用した会議の習熟するよう指導を行い、様々な場面でオンライン会議を実践します。
実績	① 家族への確認を行ったが、システム導入にまで至らなかった。 ② ITを活用し、オンライン研修へ参加した。
課題と今後の取組	・ 今後もスムーズに連携が取れるように検討を行ないます。

## 5 放課後等デイサービス事業

### 1. 施設利用稼働率

〈稼働率〉

(単位:%)



※稼働率について

1日定員(10人)を100%とした場合の実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が1,729日であったことから

$$1,729 \text{ 日} \div 2,430 \text{ 日} (10 \text{ 人} \times 243 \text{ 日}) = 0.7115 \text{ 稼働率 } 71.1\%$$

(延べ利用日数) (定員)(実稼働日数)

### 2. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期間平均
実利用者数	13	13	11	13	12	11	11	11	14	14	11	11	12人
延べ利用日数	135	128	158	161	162	132	148	149	135	147	137	137	144日

### 3. 平均障害区分及び平均利用日数

	児童
	利用者1人あたり 月平均利用日数
令和3年度	12.07日
令和4年度	11.90日

#### 4. 年間行事報告

開催日	実修行事	内 容
10月31日	ハロウィン	・庭にお菓子をぶら下げてくれる地域の方宅へ伺い、お菓子をいただいできた。
12月26日	クリスマス会	・午前中におやつのカップケーキ作りを行い、午後から、100円均一で自分の欲しいものを購入し、プレゼントとした。
その他	・感染症対策を行いながら、長期休みの昼食づくりを実施した。	

#### 5. 事業報告(総括)

保護者に安心していただけるサービス提供に努め、子供たちが目標を実現できるように個々に合わせた支援を行います	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子供たちの成長に合わせて社会のルールや将来必要なスキルを身につけられるよう、一人ひとりの目標や課題を職員間で共有します。</li> <li>② 新型コロナウイルスなどの感染症を予防するため、それぞれの子供に分かる伝え方や支援方法を実施します。</li> <li>③ 子供たちの個性や障害特性に合った支援を行うため、職員の勉強会を実施しスキルアップを図ります。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日の職員ミーティング時に、子供たちの状態の確認と配慮すべき点を話し合うことで、個々への支援のポイントを共有した。</li> <li>② ホールでは、色付きの輪っかを置き子供たちが適切な間隔で座れるよう表示し、手洗いにはタイマーを使用して、感染症予防に努めた。</li> <li>③ ミーティングにおいて、障害特性の説明、配慮点等を伝えスキルアップを図ったが、勉強会の実施には至らなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き感染症予防対策を行います。</li> <li>・ ミーティングの時間を活用し、子供たちの目標や保護者のニーズを確認しあいながら支援を行います。</li> </ul>

事業継続計画(BCP)に基づき、災害等の発生時も事業を継続できるよう体制を整備します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害発生時には、子どもたちの安全確保を最優先し、保護者へ安全に送り届けられるよう保護者や関係機関と連絡手順を整備し共有します。</li> <li>② 災害時に被害が最小限になるよう、障害事業独自の災害マニュアルの作成を行います。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 災害等での被害はなかったが、災害時の連絡手順を確認した。</li> <li>② 8月より事業所が平堀から鹿瀬へ移転となった移転先の危険個所や避難所等は把握し、災害マニュアル見直しの検討はしているが、作成には至っていない。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校と災害時の連絡調整を再検討していきます。</li> <li>・ 災害マニュアル作成、連絡手順の見直し作成を行います。</li> </ul>

IT・ICTの活用し、情報発信、情報共有を効率的に行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各学校で行われる IT、ICT 化に関する情報の収集を行い、子供たちにとって有効(有益)となるよう、事業所の IT 機器の使用について検討します。</li> <li>② 職員がリモート(Zoom 等)を活用した会議に習熟するよう指導を行い、様々な場面での IT を活用した会議、研修を行います。</li> <li>③ IT(SNS 等)を活用して、事業所の取り組みや事業所での子供たちの様子を定期的に発信します。</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各学校のタブレット授業の現状の把握を行い、子供たちの持ち帰るタブレットをとこなみで使用することはできないことが分かった。</li> <li>② IT を活用し、オンライン研修へ参加した。</li> <li>③ 公式 LINE を使用し、保護者へのお知らせや連絡を行った。事業所での子供たちの様子は行事があった際に発信するのみで、定期的な発信ができなかった。</li> </ul>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS、IT機器の活用ができるよう、職員のスキルアップを図り、会議やミーティング等に活用していきます。</li> </ul>

## 6 ほっとサポートとこなみ 研修報告

### 1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	安全運転管理者等講習
		愛着障害の理解と支援の基本
		専門職のためのてんかん研修会
		新潟県集団指導
		新潟県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)
		サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修

### 2. 内部研修状況

開催月	研修名	対象職員	参加者数	出席率
5月	・感染症、食中毒予防について ・疾患、ご利用者の緊急対応研修 ・危険予知トレーニング	45人	38人	84%
6月	・口腔、栄養、褥瘡ケアについて ・腰痛予防について ・身体拘束について ・危険予知トレーニング	45人	38人	84%
7月	・救急法	45人	45人	100%
8月	・両立支援について ・苦情について ・プライバシー保護について ・危険予知トレーニング	44人	40人	91%
9月	・法令遵守について ・個人情報保護について ・高齢者、障害者虐待防止について	44人	40人	91%
10月	・感染症予防と吐物処理について ・緊急時の事故対応について ・危険予知トレーニング	44人	38人	86%
11月	・看取り介護について ・接遇・言葉遣い・身体拘束について ・危険予知トレーニング	45人	36人	80%

12月	・事件事例検討のについて ・医療的ケアについて ・危険予知トレーニング	44人	41人	93%
2月	・褥瘡ケアについて ・危険予知トレーニング	44人	37人	84%
3月	・危険予知トレーニング	44人	31人	70%

- ・東蒲の里との合同開催で行った。
- ・救急法は法人全体で阿賀町消防署を会場に少人数制で行った。

### 3. 研修報告(総括)

#### ① 外部研修

- ・コロナ禍で研修の在り方も変わり、Web研修会が主流となった。その中で、愛着障害の理解やてんかんの基礎知識の研修に参加し、支援技術や障害理解のスキルアップに努めた。

#### ② 内部研修

- ・新型コロナウイルス感染症防止のため、集合研修は行わず、資料配布や動画視聴での研修を行った。また、研修内容に沿った問題を出題し、回答の提出を以て参加とみなした。

## 7 ほっとサポートとこなみ ボランティア活動状況

※新型コロナウイルス感染症予防対策のためボランティアの受け入れを中止した。

## 8 ほっとサポートとこなみ 災害対策

### 1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
7月19日	〈とこなみ(鹿瀬)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後 消火訓練を行った。	職員3名
7月26日	〈とこなみ(平堀)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通報訓練を実施。消防本部の講評後消火訓 練を行った。	職員9名
7月5日	〈たいよう〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員1名
7月12日	〈あかり〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員1名
10月15日	〈たいよう・あかり〉 ・日中を想定した避難訓練を行った。	職員2名
10月18日	〈とこなみ(平堀)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通達訓練を実施。消防本部の講評後消火 訓練を行った。	職員6名
10月26日	〈とこなみ(鹿瀬)〉 ・日中想定避難訓練 初期消火訓練・通達訓練を実施。消防本部の講評後消火 訓練を行った。	職員3名

### 2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
6月7日	・契約業者による消防設備の点検(障害事業全建物) スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を 行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
12月8日	・契約業者による消防設備の点検(障害事業全建物) スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器などの点検を行い、点検結果 を阿賀町消防本部へ報告した。



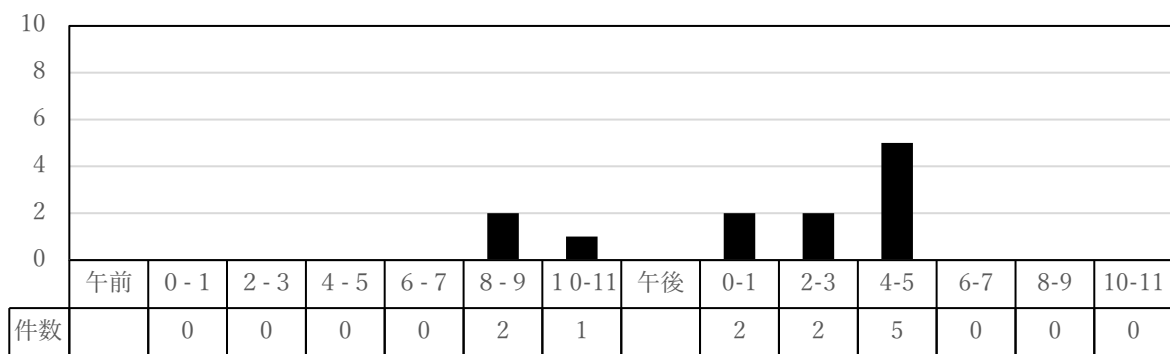
## 9 ほっとサポートとこなみ 苦情受付・対応報告

※年間をとおして、苦情などはありませんでした。

## 10 ほっとサポートとこなみ 事故等発生状況報告

### 1. 時間帯別発生件数

(単位:件数)



〈 発生件数合計 12 件 〉

### 2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	1件
食堂・リビング	0件
作業室・多目的室	2件
廊下・玄関	0件
浴室	0件
トイレ	0件
施設外	2件
その他	7件
合計	12件

### 3. 内容別発生件数

発生場所	件数	阿賀町へ報告
転倒・転落	0件	0件
骨折	0件	0件
裂傷	0件	0件
打撲・皮下出血	1件	0件
無断外出	1件	0件
私物紛失・物品破損	2件	0件
異食・誤飲	0件	0件
誤薬・与薬もれ	1件	0件
利用者間トラブル	1件	0件
車輛事故	4件	0件
その他	2件	0件
合計	12件	0件

### 4. 事故発生状況総括

- 事故の内容については、ヒヤリ・ハットにより報告されている内容、以前にも同様の事故、職員の支援力不足によって起きてしまった事故が多かった。職員の対応方法によっては、事故に繋がる危険性があることをしっかりと理解し、利用者個々の特性、障害特性を理解したうえで支援にあたるよう、職員のスキルアップを図ります。
- 送迎や施設外での作業が多くなったこともあり、車輛事故が多くあった。運転前点検を確実に実施し、輛の不具合、送迎や作業場所までの道路状況等を職員間で共有し、安全に運転することを徹底します。